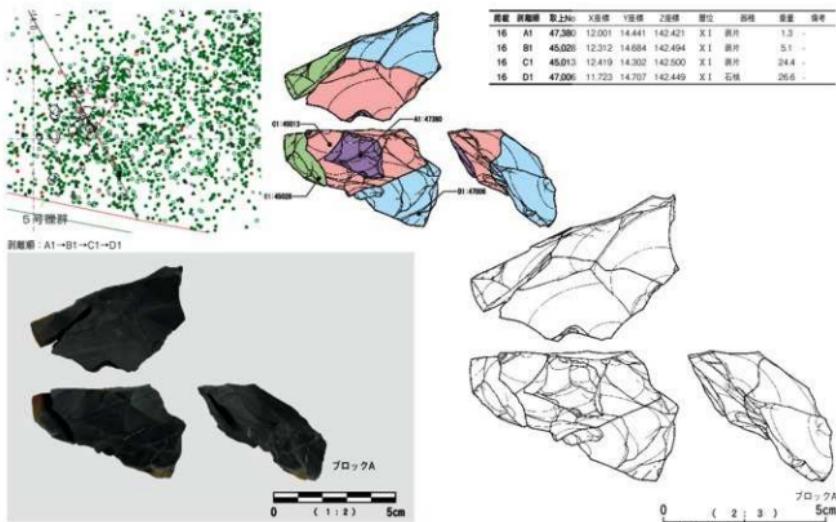


規番	貯蔵番	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	形態	重量	枚数
15	L1	43.905	12.881	16.713	142.545	X	断片	23.4	-
15	M1	42.619	11.836	13.445	142.938	X1	断片	12.9	-
15	M2	44.079	12.302	16.526	142.526	X1	断片	1.5	-
15	M3	43.205	13.961	15.723	142.585	X	断片	1.3	-
15	M4	23.726	14.116	14.666	142.666	X	断片	24.4	-
15	N1	22.001	142.98	12.315	142.723	X	断片	4.6	-
15	O1	43.313	12.399	16.399	142.592	X	断片	1.7	-
15	O2	42.015	11.982	14.190	142.661	X	断片	2.5	-
15	O3	42.742	11.836	14.915	142.554	X1	断片	3.7	-
15	O4	42.298	11.674	17.042	142.704	X	断片	0.5	-
15	O5	43.118	12.665	15.818	142.589	X	断片	1.4	-
15	P1	43.896	12.806	16.939	142.564	X	石核	54.2	1
15	Q1	42.398	12.950	15.853	142.684	X	断片	2.7	-
15	Q2	42.191	12.173	12.849	142.512	X	断片	24.0	-
15	R1	43.900	13.102	15.741	142.528	X	断片	9.7	-
15	S1	42.659	12.429	15.341	142.636	X	断片	2.4	-
15	T1	43.905	13.147	15.975	142.514	X	断片	150.2	-
15	U1	45.947	12.896	15.627	142.481	X1	断片	1.8	-
15	V1	43.646	12.381	13.140	142.363	X1	断片	15.3	1



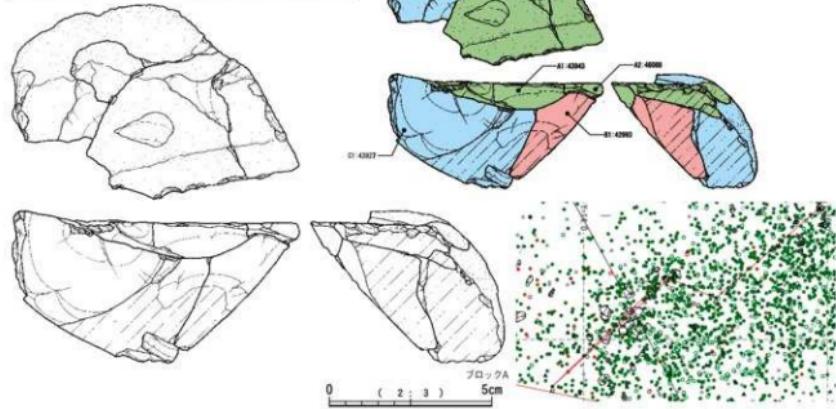
第73図 接合資料No15 (2)



第74図 接合資料No16

選択	剥離番号	剥離上位No	X座標	Y座標	Z座標	厚さ	用途	重量	件名
17	A1	43.943	12.544	14.747	142.534	X	剥片	25.6	-
17	A2	46.088	11.616	13.742	142.391	X1	剥片	5.5	-
17	A3	42.854	12.517	14.669	142.595	X	剥片	2.3	-
17	B1	42.993	12.341	15.054	142.592	X	剥片	12.6	-
17	C1	43.927	13.076	15.932	142.510	X	石核	129.5	-

剥離順:(A1+A2+A3)→B1→C1

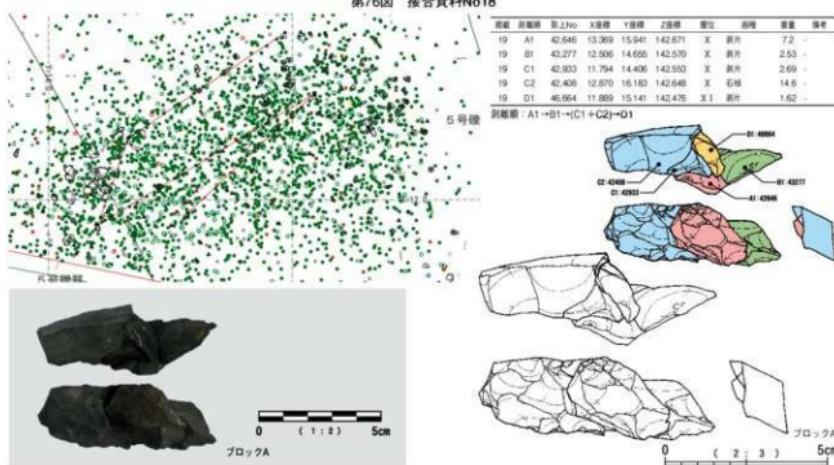
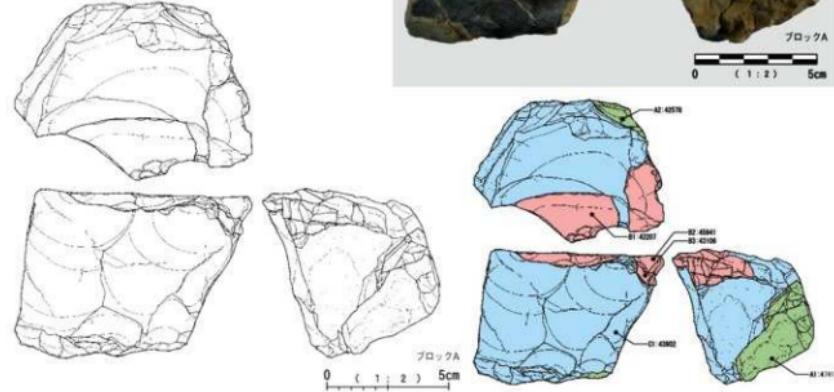
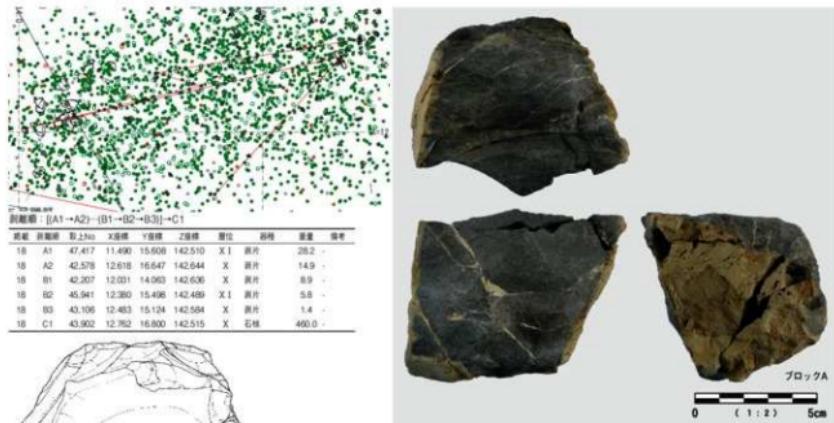


第75図 接合資料No17

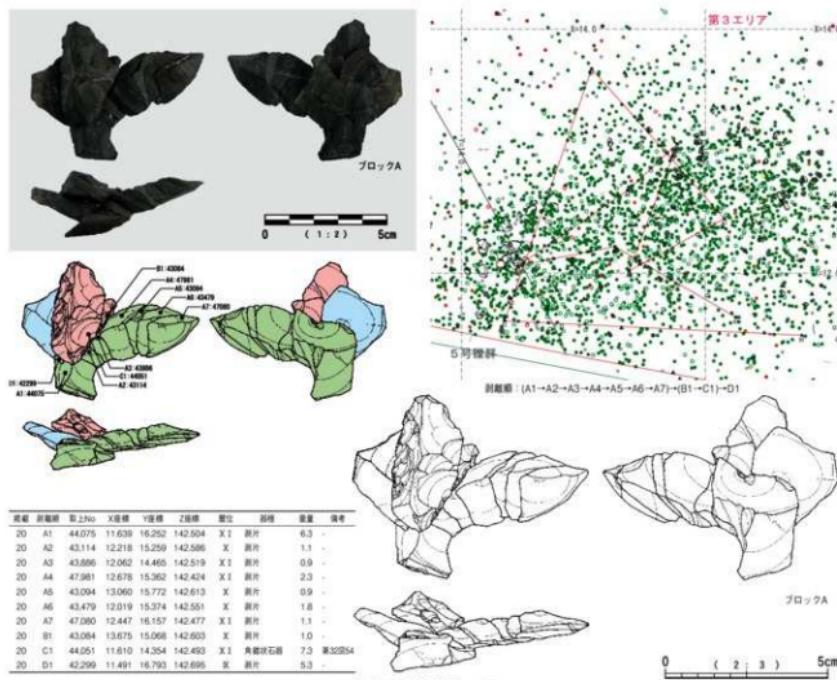
接合資料No17 (第75図)

拳大の礫を素材とする接合資料である。打面を反転させながら幅4cm~5cm程度の剥片を剥離している。剥片と石核のみの接合例である。

角錐状石器関連の素材剥片剥離に伴う石核接合資料とみられる。亜角礫を素材として剥離された大型の剥片を素材としており、作業面を反転せながら交互剥離に近い技術で剥離を進めている。剥離された目的的剥片は最大幅が6cm程度の横広剥片である。残核は径7cm程度で放棄されている。



第76図 接合資料No18



第78図 接合資料No20

接合資料No19（第77図）

石核接合資料の最終段階に近い資料である。石核を転回しながら交互剥離中に剥片剥離を進めているが、最終的には石核が破壊し放棄されている。

接合資料No20（第78図）

角錐状石器の製品を含む接合資料である。横広の剥片を素材とする。製品と調整剥片は素材剥片レベルでは各々別の個体に属し、素材剥片レベルでは都合3個体分の接合資料を含む。個体Aは素材剥片の主要剥離面側から調整剥離を施しているが製品は接合していない。個体Bは製品を含む。個体Aの素材剥片剥離面を打面として剥離された剥片を素材に調整加工を施し、主軸長4cmほどの製品を作出している。個体Cは剥片である。

接合資料No21（第79図）

角錐状石器2点を含む接合資料である。いずれも横広の不定形剥片を素材とし、片方の側縁から二次加工を施している。先端部を鋭く加工する意匠は看取されず、側縁に加工が集中するのが特徴である。

接合資料No22（第80図）

主軸長6cm程度の角錐状石器接合資料である。横広の剥片を素材とし、丁寧に整形された資料であるが、最終段階では先端部1/3ほどのところで大きな調整剥離が入れられており、これが契機となって放棄されたものと見られる。

接合資料No23（第81図）

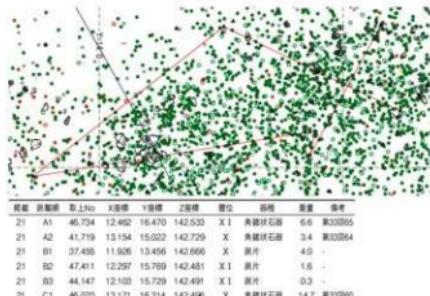
角錐状石器関連の調整剥片接合資料である。剥片47075の打撃を契機に製品が破壊しており、器体の約半分が欠落している。

接合資料No24（第82図）

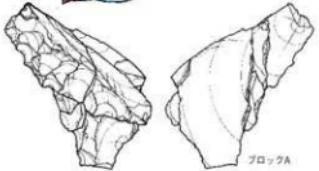
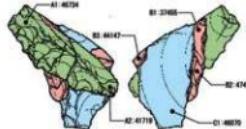
角錐状石器の製品と調整剥片の接合資料である。製品の主軸長4cm程度で、正面側と裏面側から加熱された調整剥片が1点づつ接合している。

接合資料No25（第83図）

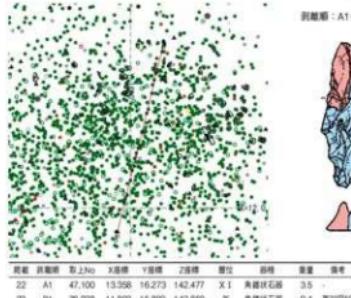
角錐状石器を含む剥片接合例である。節理を挟んで接合しており、石核レベルではそれぞれ別の個体に属するものとみられる。角錐状石器は先端部のみで、調整剥離が施されない側縁も残されており、二次加工は積極的ではない。



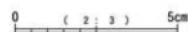
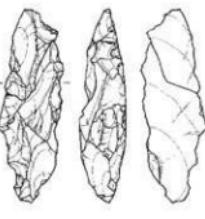
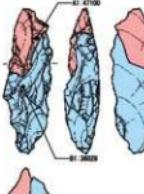
剖面図: (A1+A2)→(B1→B2)→B3→C1



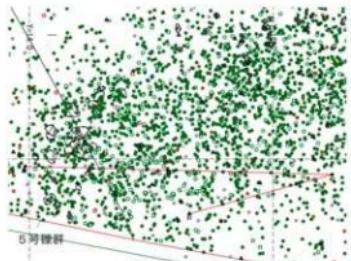
第79図 接合資料No21



剖面図: A1→B1



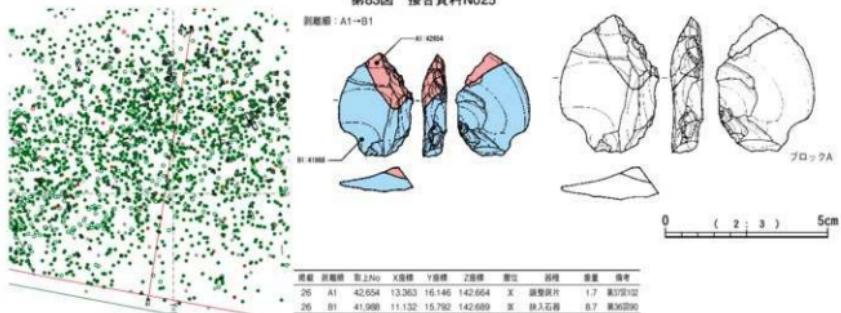
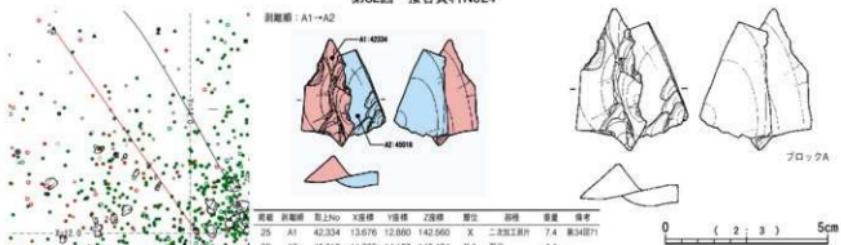
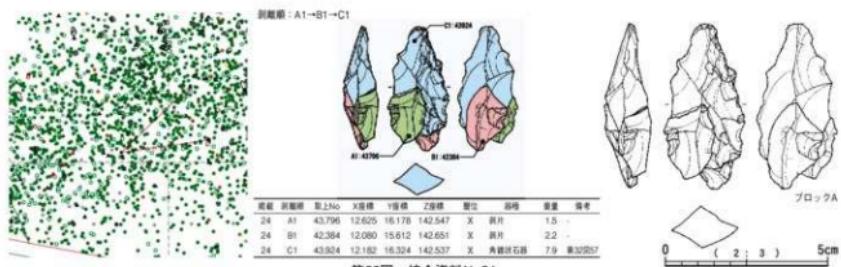
第80図 接合資料No22



剖面図: A1→A2→B1



第81図 接合資料No23



接合資料No26 (第84図)

主軸長4cm程度の剥片を素材とする削器と調整剥片の接合資料である。調整剥片は刃部の中心付近に入れられており、刃部形状を大きく変えるように剥離されている。

接合資料No27 (第85図)

比較的大型の剥片を素材とする削器の接合資料である。器体中央部で破断しており、接合作業によって主軸長7cm程度の製品であることが判明した。

接合資料No28 (第86図)

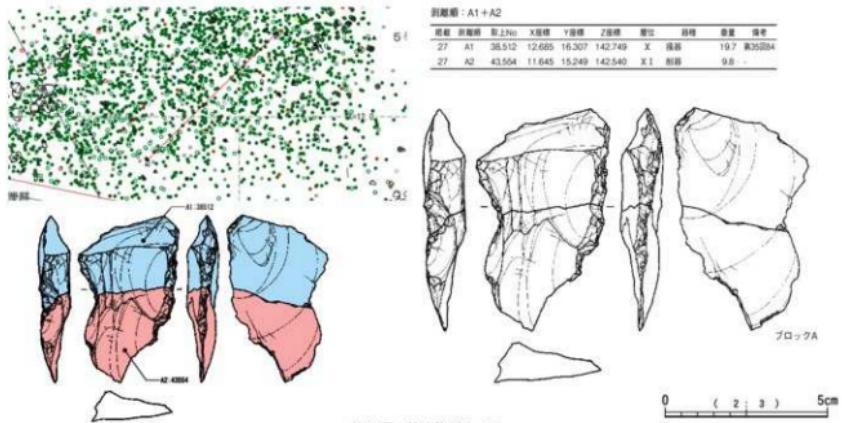
基本的には主軸長4cm程度の不定形剥片の接合資料である。剥片の右側縁には微細剥離痕が観察され、左側縁の一部に刃溝し加工が施されている。削器的な機能が想定される。

接合資料No29 (第87図)

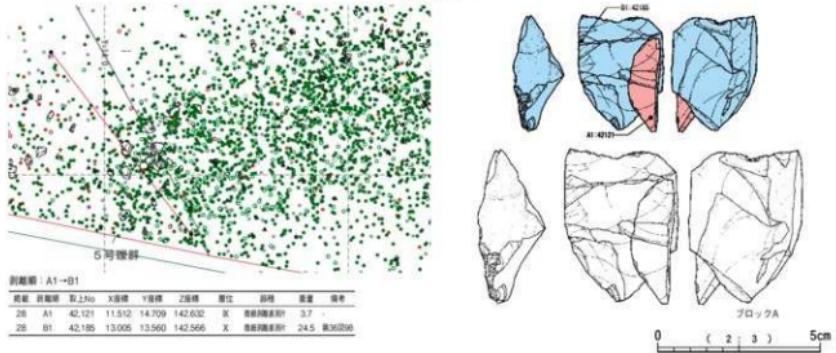
微細剥離痕剥片を含む接合資料である。主軸長5cm程度の剥片を素材とし、側縁部には1点だけ調整剥片が接合している。二次加工が局的に見られるほか、微細剥離痕の集中も数か所観察される。

接合資料No30 (第88図)

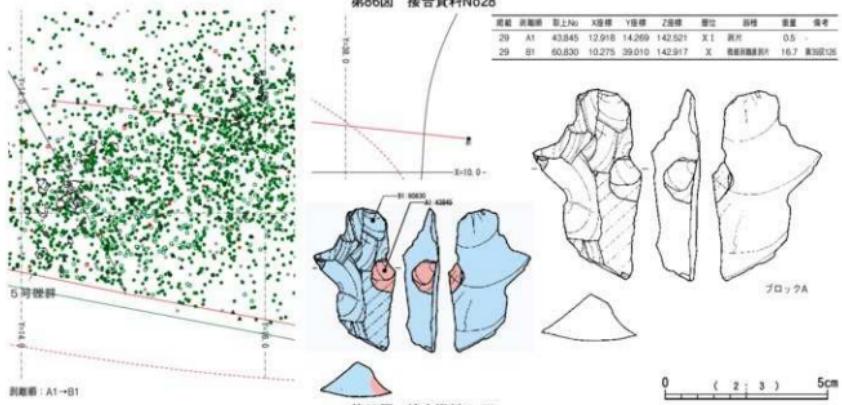
細かな調整等は観察されないが、角錐状石器に関連する調整剥離段階の接合資料とみられる。表面に調整剥離に近い剥離が施されているが、必要な形状を確保できなかつたためか、そのまま放棄されている。放棄された両面調整体の主軸長は4cm程度である。



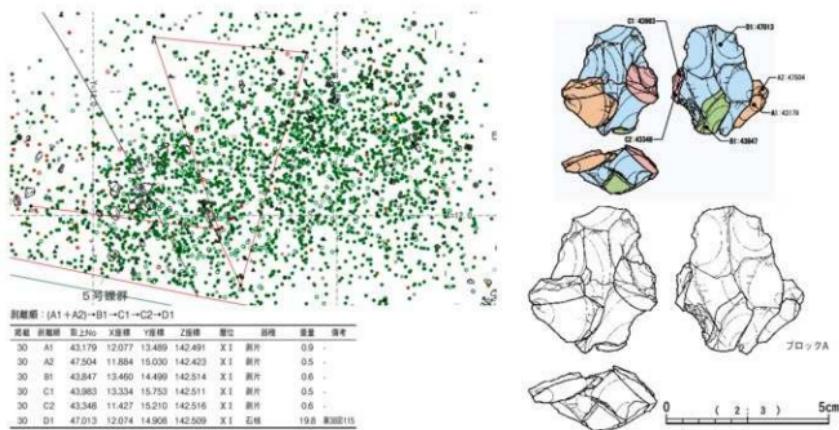
第85図 接合資料No.27



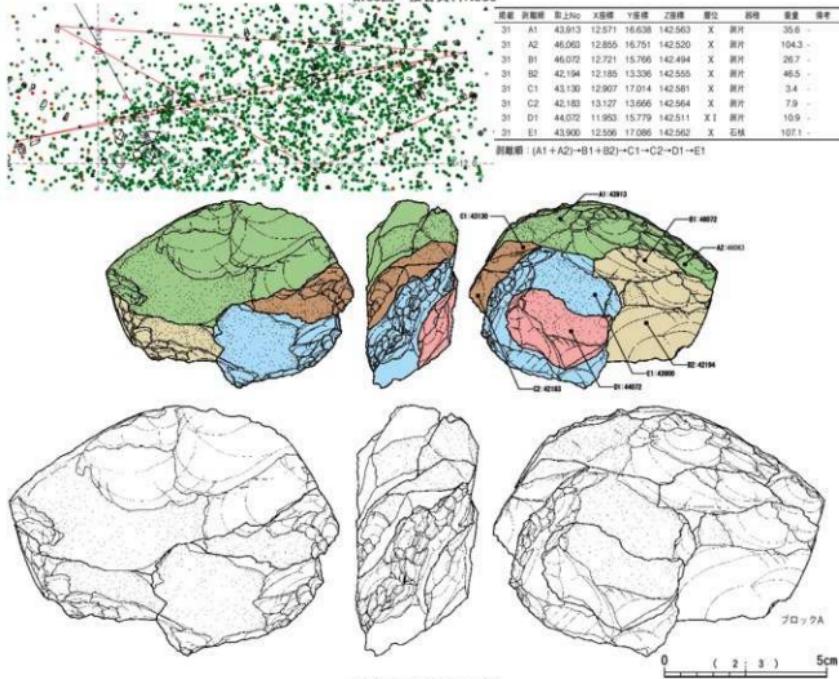
第86図 接合資料No.28



第87図 接合資料No.29



第88図 接合資料No30



第89図 接合資料No31

接合資料No31（第89図）

拳大の亜角礫を素材として剥片を剥離している。ほぼ原礫が復元可能な状態まで接合されている。珪質分が少ない粗質

部分を素材とするためか、剥離もかなり粗い。二次加工等が施されることもほとんどなく、そのまま放棄されたものとみられる。

第VI章 第Ⅲ文化層の発掘調査

第Ⅲ文化層は区層を主体とする遺物・遺構を取り扱う。遺物は他の文化層同様、土壤堆積が薄く上下層で遺物が連続的に出土する状況が見られるが、石材や接合状況等を考慮して石器群を抽出した。

遺構についてはブロックを合計12か所認定したが、中央部に大型の洞片や石核等が密集する地点が確認されたブロックが数カ所ある。これらは遺物分布とも密接に関連するため、必要に応じて各ブロックごとに資料提示を行う。

第1節 遺物

石材は頁岩Ⅲ類が主体を占め、黒曜石Ⅰ類と玉髓Ⅱ類が客体的に組成される。区層を主体に多量の遺物が集中部をなしで出土し、接合作業の結果良好な資料が多数得られている。

第Ⅲ文化層では、大きく見て12か所のブロックを設定した。さらに、各ブロックの遺物出土状況を仔細に観察すると、各ブロックはさらに小さな遺物集合に細分できる場合が少なくない。本章ではこの遺物集合の最小単位を「遺物集中部」と呼称し、資料提示の最小単位とした。なお、ブロック、遺物集中部の設定は、石材毎の平面分布状況を基本に接合状況等を加味して行った。

従って、現時点ではこれらの名称は、遺物の平面分布を元にする便宜的な呼称である。

以下、ブロックごとに出土遺物の掲載を行う。

第1ブロック（第91図）

B-1区調査区境付近に形成されたブロックである。頁岩Ⅲ類を主体とし、黒曜石Ⅰ類と玉髓Ⅱ類が客体的に組成される。特に、黒色の珪質分の強い比較的良質な頁岩が多い。

平面分布上は、大きく3つの遺物集中部に区分できる。

第1ブロック第1遺物集中部（第92図～第93図：第12表）

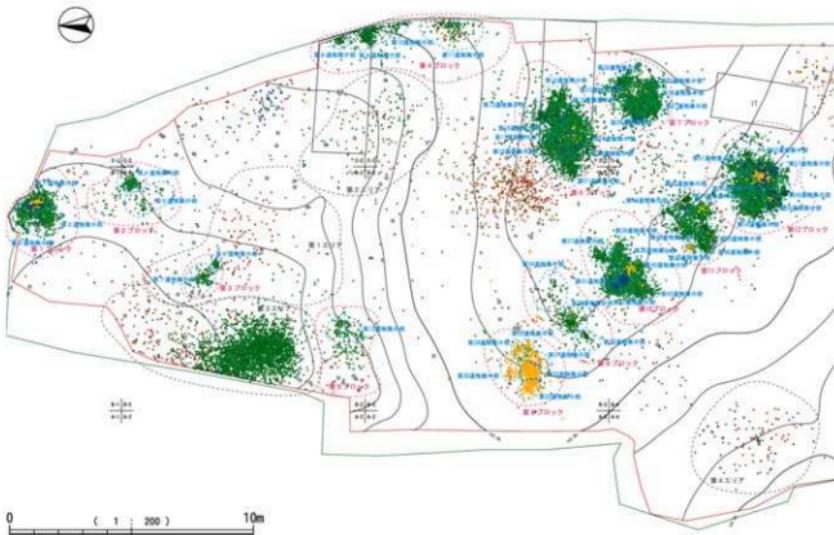
第1ブロックのうち、最も東側に位置する集中部である。頁岩Ⅲ類を主体に、黒曜石Ⅰ類、玉髓Ⅱ類が組成される。特に径40cmほどの範囲に碎片が集中的に出土している。

石器はナイフ形石器1点と削器1点、微細剥離痕剥片2点、二次加工剥片1点、石核2点、細石刃1点を抽出した。その他、剥片7点を掲載する。

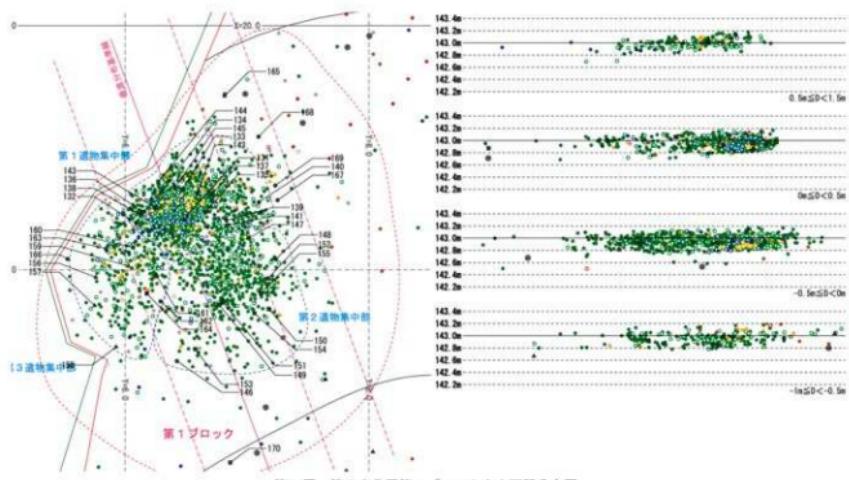
131はナイフ形石器である。小型の擬長剥片を素材とし、右側縁に細かな二次加工を施すものである。

132は削器である。幅広不定形の素材剥片の尾部側に二次加工を施して製品としている。

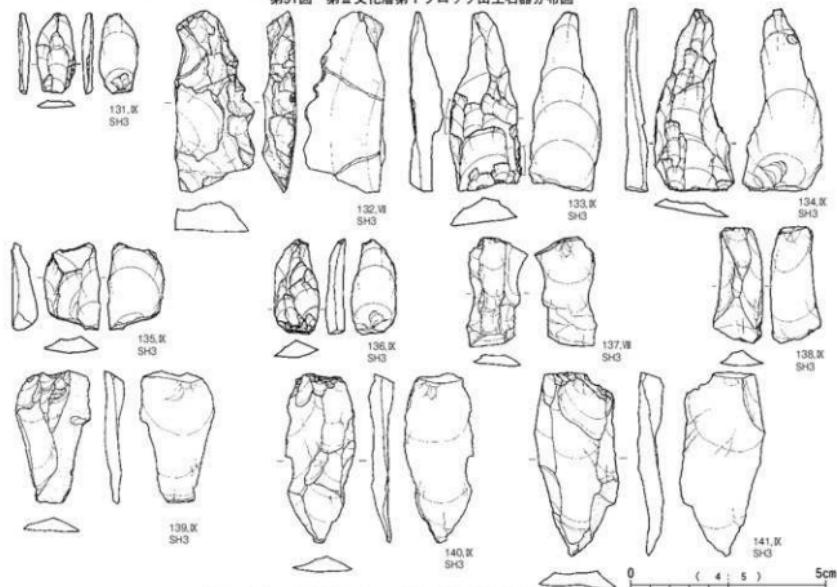
133は微細剥離痕剥片である。主軸長45mm程度の素材剥片を利用し、正面右側縁の中央部付近に僅かに微細剥離痕が観察される。134も微細剥離痕剥片である。133と同程度の素材を選択し、両側縁の中央部付近に微細剥離が観察される。136～141は小型の擬長剥片である。主軸長が20mm程度のものから45mm程度のものが多く、このサイズが目的の剥片の許容サイズとみられる。石材は、136.140.134が同一母岩で黒



第90図 第Ⅲ文化層遺物出土状況図



第91図 第三文化層第1ブロック出土石器分布図

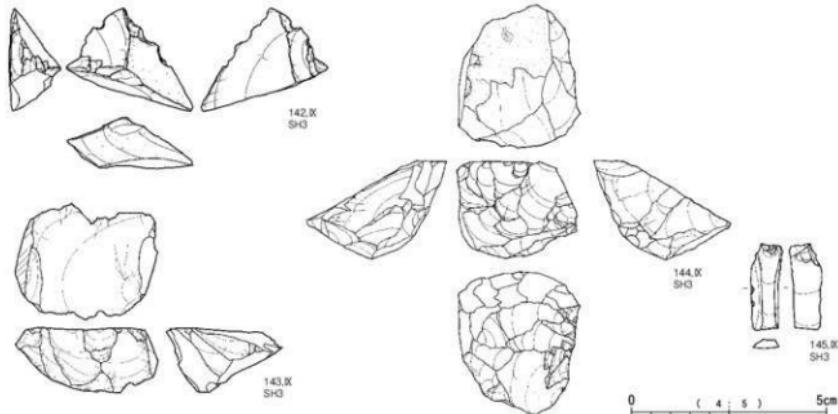


第92図 第三文化層第1ブロック第1遺物集中部出土石器実測図(1)

色良質の個体。137,138,141が灰褐色のやや珪質分の弱い個体である。なお、135も剥片であるが、この資料は第II文化層で利用されている頁岩III-E類を素材としており、接合資料No13に含まれるものである。

142は二次加工剥片である。右側縁に簡単な二次加工が施

されている。節理によって破断しており、全体形は不明である。143,144は石核である。いずれも白い節理が発達する黒色良質の頁岩を素材とする。残核に残された剥離面の主軸長は概ね20mm程度であり、極限まで素材剥片剥離が行われたものとみられる。



第93図 第三文化層第1ブロック第1遺物集中部出土石器実測図(2)

145は細石刃である。やや珪質の強い灰褐色の無筋理頁岩を素材としており、本集中部で主体を占める石材とはやや異なる。搬入品とみられるが、本集中部との共伴については慎重な検討を要する。尾部は切断されており、正面右側縁には微細剥離痕が観察される。

第1ブロック第2遺物集中部(第94図; 第13表)

第2遺物集中部は剥片が多く碎片類は少ないが、主要な接合資料はこの集中部で接合している。石材は白色の筋理が発達する黒色良質の頁岩を素材とするものが多い。石器は石核7点を抽出した。この他、剥片3点を掲載する。

146~148は剥片である。主軸長30mm程度のものが多い。149~155は石核である。149は若干白く風化しているが接合資料No.32に含まれ、全て同一母岩の可能性が高い。149は残核の作業面長が20mmほどしかなく、極限まで剥片剥離が進行して放棄された資料である。最終局面では先行する平坦な剥離面もしくは筋理面を打面として頻繁に打面を転しながら剥離を行っている。石材は灰褐色に風化するが、接合資料No.32に含まれ。本集中部で主体をなす石材と同一母岩である。

150~154も白色筋理が発達する珪質の強い黒色良質な個別資料第12表 第三文化層第1ブロック出土石器観察表(1)

体であり同一母岩と考えられる。いずれも残核に残された剥離面の主軸長は20mm程度で極限まで剥片剥離が行われ、放棄されたものである。

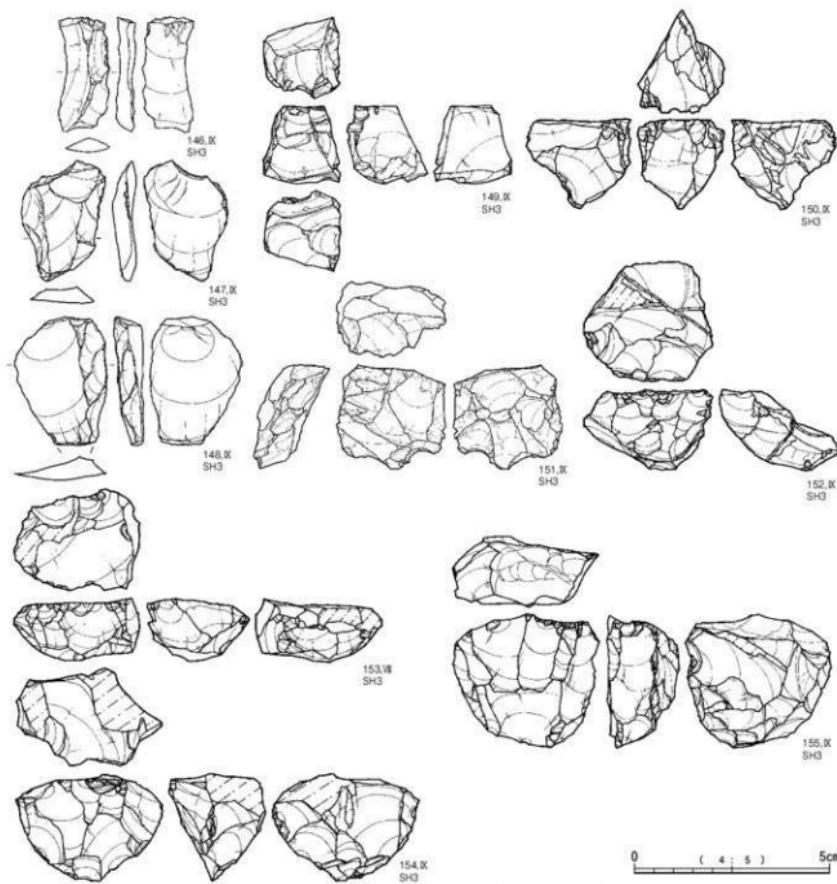
第1ブロック第3遺物集中部(第95図; 第13表)

第1ブロックの中では比較的散漫な分布状態である。ナイフ形石器4点、微細剥離痕剥片2点、石核1点を抽出した。この他、剥片2点を掲載する。

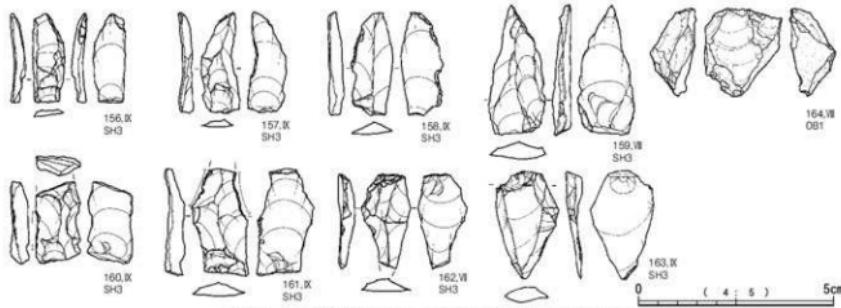
156~159は小型の縱剥片を素材とするナイフ形石器である。156は正面右側縁先端部付近に素材の主要剥離面側から二次加工が施されている。先端部は欠損している。157も正面左側縁先端部に僅かに二次加工がみられる製品である。158は裏面右側縁基部付近に細かな剥離がみられる。使用等による微細剥離の可能性もあるが、剥離が通常観察される微細剥離痕よりもやや大きいため、二次加工の可能性のあるものとして取り扱っておきたい。なお、基部には折断的な剥離がみられ、正面右側縁中央部、裏面左側縁先端部には連続的な微細剥離痕が観察される。159は主軸長30mm程度の縱剥片を素材とし、背面側から裏面左側縁基部付近に数枚の二次加工を加えている。

160,161は微細剥離痕剥片である。160は正面左側縁中央部

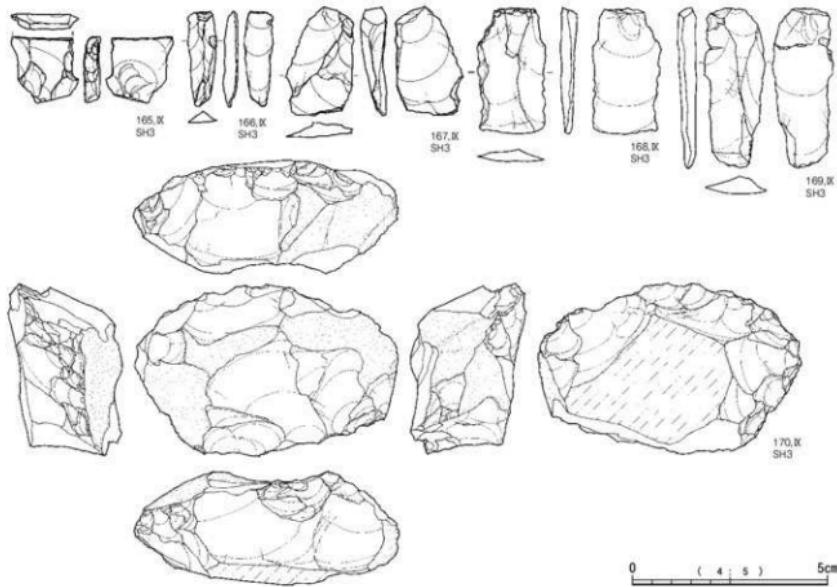
序号	図示	第1H	第2H	Y座標	X座標	厚さ	形状	寸法	集中部	部位	分類	分類	分類	EML1	EML2	最大長(men)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
92	131	24011	18.411	6.401	142.969	801	COR	区	ナイフ形石器						20.2	10	3.1	0.43		
	132	26013	19.382	6.090	143.123	801	COR	区	剥離						45	20.4	9	7.69	SG100_A1	
	133	27402	18.860	6.473	142.865	801	COR	区	微細剥離痕剥片						44.6	19	8.9	3.84	SG273_A1	
	134	27289	18.641	6.302	142.919	801	COR	区	微細剥離痕剥片						45.3	20.1	6	2.87	SG274_A1	
	135	27349	18.470	6.669	142.859	801	COR	区	剥離						21.7	14.3	7	1.57	結合資料No.13_H4	
	136	27263	18.474	6.146	142.865	801	COR	区	剥離						23.7	11.4	5.3	1.14		
	137	19609	18.621	6.710	143.126	801	COR	区	剥離						27.4	15.7	3.9	1.8		
	138	27282	18.449	6.125	142.829	801	COR	区	剥離						29.1	12.7	4.5	1.33	SG343_A2	
	139	25691	18.403	6.831	142.926	801	COR	区	剥離						34.1	18.7	5.3	2.44		
	140	21593	18.554	7.098	142.963	801	COR	区	剥離						43.2	17.5	6.7	3.22	結合資料No.33_F10	
93	141	26111	18.365	6.835	142.914	801	COR	区	剥離						47	21.2	6.5	5.21		
	142	24911	18.619	6.592	142.950	801	COR	区	二次加工剥片						25.8	31.6	13.4	4.84		
	143	26062	18.536	6.252	142.960	801	COR	区	芯核						16.4	35.6	30	14.82		
	144	26123	18.722	6.273	142.972	801	COR	区	芯核						24.2	30.1	36.8	24.82	SG251_A2	
	145	26121	18.671	6.410	142.949	801	COR	区	細石刃						21.5	8.3	3.1	0.55		



第94図 第Ⅲ文化層第1ブロック第2遺物集中部出土石器実測図



第95図 第Ⅲ文化層第1ブロック第3遺物集中部出土石器実測図



第96図 第三文化層第1ブロック遺物集中部外出土石器実測図

点を掲載する。

付近、161は正面の両側縁の先端部付近に微細剥離が多く観察される。162.163は剥片である。いずれも主軸長25mm～30mm程度の小型の継長剥片である。164は石核である。黒曜石I類を素材とするものである。最後の作業面に残された剥離の主軸長は約20mmである。

第1ブロック遺物集中部外（第96図；第13表）

ナイフ形石器1点、石核1点を抽出した。この他、剥片4

第13表 第三文化層第1ブロック遺物観察表（2）

番号	回数	基上名	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	部位	中軸L	GHL3	EHL1	EHL2	最大L(mm)	最大厚(mm)	最大幅(mm)	重量(g)	備考
94	146	17.252	6.425	142.929	801	C02	区	剥片	-	SH3	-	28.8	12.9	5.3	1.74		
	147	23.350	18.259	7.015	142.938	801	区	剥片	-	SH3	-	30.1	21	6.4	3.11		
	148	24.029	18.086	7.237	142.876	801	C02	剥片	-	SH3	-	32	23.1	8	4.21	SG298 A3	
	149	20.536	17.712	6.774	142.886	801	C02	X	石核	SH3	-	19.5	19.4	21	8.1	混合資料No32.C1	
	150	24.865	17.679	7.179	142.815	801	C02	区	石核	SH3	-	22.5	21.9	26.7	10.84	混合資料No32.C1	
	151	21.516	17.741	6.796	142.933	801	C02	区	石核	SH3	-	26	27.3	19.6	11.43	混合資料No32.C1	
	152	22.562	17.927	7.172	142.918	801	C02	区	石核	SH3	-	20.3	32.2	30.9	15.34	SG228 C3	
	153	20.118	17.280	6.875	143.002	801	C02	区	石核	SH3	-	15.9	31.7	26.4	13.71	混合資料No32.B1	
	154	22.547	17.644	7.061	142.896	801	C02	X	石核	SH3	-	26.7	36.7	25.3	20.15	混合資料No32.H1	
	155	22.656	17.805	7.113	142.917	801	C02	区	石核	SH3	-	33.4	36.6	18.4	23.43	混合資料No32.N1	
95	156	21.423	17.504	5.759	142.995	801	C03	区	ナイフ形石器	SH3	-	22.3	8.3	4.1	0.54		
	157	21.017	17.706	5.750	143.007	801	C03	区	ナイフ形石器	SH3	-	25.2	9.9	4.1	0.47		
	158	21.451	17.367	5.926	142.887	801	C03	区	ナイフ形石器	SH3	-	25.8	10.7	4.5	0.81		
	159	20.002	18.030	6.025	143.049	801	C03	区	ナイフ形石器	SH3	-	32.3	14.4	5.1	1.66		
	160	23.307	18.184	6.066	142.937	801	C03	区	複雑剥離剥片	SH3	-	20.5	11.4	5	0.9		
	161	23.972	17.947	6.261	142.879	801	C03	区	複雑剥離剥片	SH3	-	26.8	14.5	5.5	1.23	SG056 A4	
	162	19.487	17.741	6.291	143.099	801	C03	区	剥片	SH3	-	23.8	12.4	4.6	0.85		
	163	20.561	18.172	5.843	143.074	801	C03	区	剥片	SH3	-	27.2	15.9	4.6	1.25		
	164	19.744	17.805	6.178	143.059	801	C03	区	石核	OB1	-	22	19.4	12.1	4.29		
	165	21.998	19.424	6.816	143.040	801	-	区	ナイフ形石器	SH3	-	16.7	16.9	4.3	1.17		
96	166	21.020	18.068	5.528	143.129	801	-	区	剥片	SH3	-	23.7	7.4	4.1	0.54		
	167	26.610	18.570	7.251	142.842	801	-	区	剥片	SH3	-	27.1	17.2	7	2.25		
	168	24.063	19.090	7.095	142.960	801	-	区	剥片	SH3	-	32.2	17.5	4.6	2.19	混合資料No32.F7	
	169	22.621	18.690	7.232	142.974	801	-	区	剥片	SH3	-	39.8	15.4	5.1	2.73	混合資料No32.F11	
	170	21.582	16.420	6.862	142.874	801	-	区	石核	SH3	-	28.3	65.8	29.2	92.33		

状に剥離が施されているが、石核に残された剥離面を観察する限りでは規格的な剥片を連続的に剥離した形跡はさほど看取されない。剥離はどちらかというと周縁の整形剥離のみにとどまる傾向が強く、本格的な目的的剥片剥離段階に移行する前の準備状態で放棄されたものとみられる。石材は、集中部内で極限まで剥離が進行したものと比べるとやや珪質分が少ないと。

第2ブロック（第97図）

第1ブロックから4mほど離れた位置で検出された。碎片が密集する遺物集中部と、散漫な分布状況を示す集中部各1基づくを検出した。

第2ブロック第4遺物集中部（第98図：第14表）

大型の石核と目的的剥片の剥離がある程度進行した小型の石核が2点出土している。

171は大型の石核である。石核を転回しながらやや大きめの剥離が試みられているが、剥片は接合していない。調査区内には接合する遺物は見つかっていない。剥離への石材搬入状態を示す可能性が高い資料である。172は剥片剥離が比較的進行した石核で、やや珪質分に富む比較的の良質の母岩を素材とする。最終作業面では先行剥離面を打面として目的的剥片の剥離が進行し、最終作業面に残された剥離の主軸長は概ね20mm程度である。

第2ブロック第5遺物集中部（第99図：第14表）

第4遺物集中部に隣接する緩慢な集中部である。頁岩を中心に、緩やかな集中部を形成している。削器1点、石核1点を抽出した。

173は砂岩を素材とする削器である。やや大型の剥片を素材とし、簡単な二次加工を施して製品としている。遺物集中部内に砂岩を素材とする剥片類はほとんど見られず、製品状態での持ち込みの可能性が高い。

174は石核である。灰褐色を呈する個体であるが、比較的珪質分に富む良質な個体を素材とする。多くの部分を自然面ないし節理面で覆われており、小型の分割剥片を石核素材としている。目的的剥片の剥離は平坦な先行剥離面を打面として行われているが石核素材が小さいためか、数枚の剥離を経た後に放棄されている。作業面に残された剥離面の主軸長は概ね20mm程度である。

第3ブロック（第100図）

B-2区の中央部付近に位置し、第2ブロックと同様に碎片が密集する遺物集中部と、散漫な分布状況を示す集中部各1基で構成される。石核1点を抽出した。

第3ブロック第6遺物集中部（第101図：第14表）

石核1点のみが出土している。175は黒色の珪質分に富む比較的の良質な個体を素材とする。打面を転回しながら平坦な節理面もしくは先行剥離面を打面として目的的剥片を剥離し

ている。やや大きい資料であるが、打面と作業面の角度が直角に近く、かつ他の後線も段差をもつなどするため、適正な作業角度の形成が困難な状況で放棄された可能性が高い。

第4ブロック（第102図）

調査区の最も台地側に位置するブロックである。調査区境に隣接するため全体像を把握できないが、4つの集中部を形成している。第9遺物集中部及び第10遺物集中部の下部からは、比較的大型の剥片や石核等が密集して検出された（第103図）。

なお、第11集中部については他の集中部とやや距離があり同一ブロックとしてよい可疑も残るが、ほぼ隣接して検出されており検出位置も同一層準であるため、ここでは同一ブロックとして取り扱っておく。

第4ブロック第8遺物集中部（第104図～第105図：第15表）

頁岩のみで構成される小規模な集中部である。石核4点を抽出した。いずれも比較的大きめの資料で、作業面長も30mm～40mm程度と長いものが多い。

176は黒色のやや珪質分に富む個体を素材とするものである。厚手の分割剥片を素材とする石核であるが、石核下半部が欠落後に数枚の目的的剥片の剥離が試みられている。明確な作業面が形成される前に放棄されている。177は平滑な節理面を打面として目的的剥片を連続的に剥離している。打面には左側面の先行剥離面からの打撃が加えられており作業面形成が行われている可能性もあるが、基本的には單打面石核と考えられる資料である。素材は厚手の分割剥片である。最終作業面に残された剥離面の主軸長は概ね25mm程度である。178は平坦な先行剥離面を打面として、順次打点を移動しながら目的的剥片の剥離を行うものである。上面觀は円形を呈し、順次石核を回転させながら剥離を進行させている。179も先行剥離面を打面として目的的剥片を剥離する資料で、作業面は正面と右側面に形成されている。

177～179の石核は、單打面で同一方向からの剥離がなされ、最終作業面の主軸長も25mm程度と共通要素が多い。残核形状もよく似ており剥離技術から見ても一単位と見なすことができる資料である。

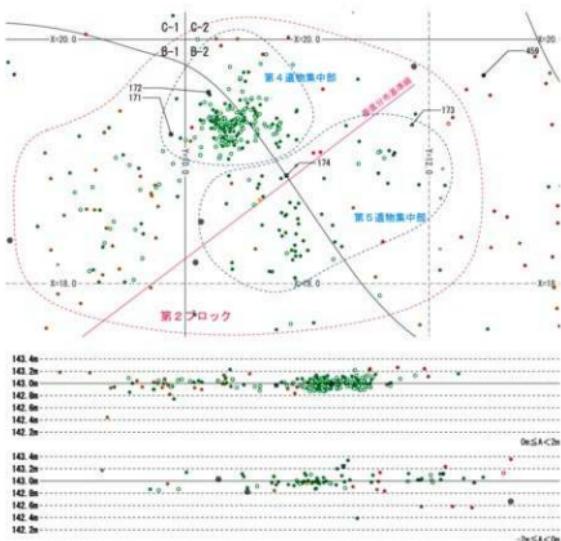
第4ブロック第9遺物集中部（第106図～第107図：第16表）

第4ブロックでは最も大きな集中部で、ほぼ頁岩のみで構成される。ブロックの下部では、比較的大型の剥片や石核等が集中した状態で検出された（第103図）。

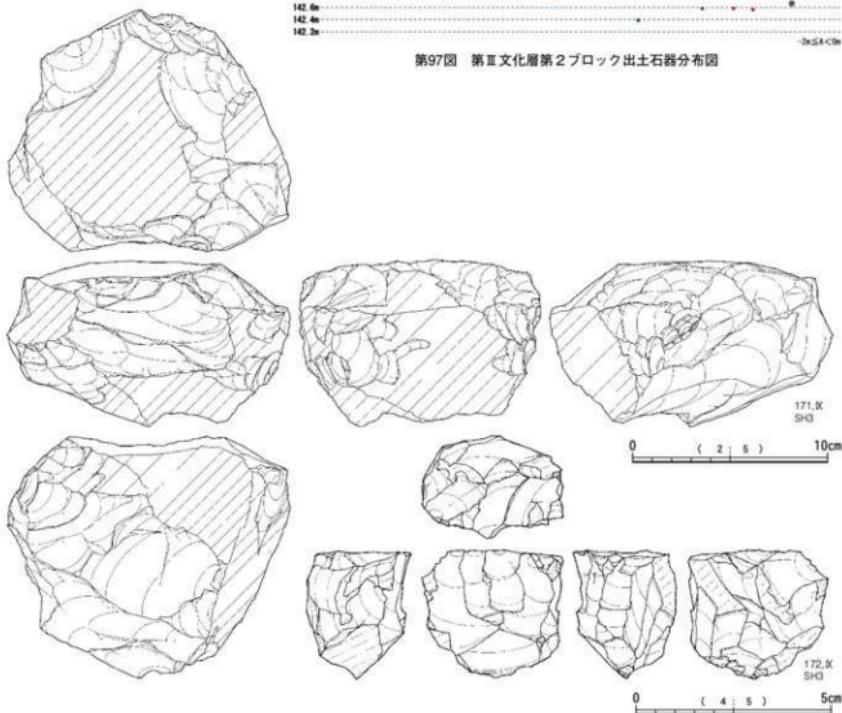
微細剥離痕剥片1点、石核10点を抽出した。

180は微細剥離痕剥片である。やや不定形の剥片を素材とし、右側縁の一部など数か所に微細剥離痕が観察される。

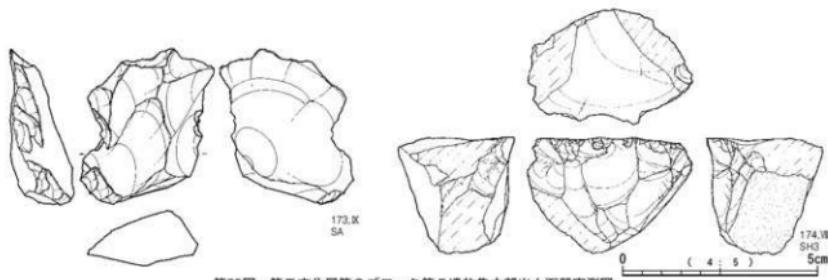
181～190は石核である。188,190を除き、比較的小型品が多い。181は厚さ2cm程度の剥片を素材とし、周縁から求心的に剥離を行なう資料である。最終段階では打面と作業面を反転させて剥離を進行しており、残核形状は亀甲状を呈する。182も最終段階で打面と作業面を反転させる石核である。し



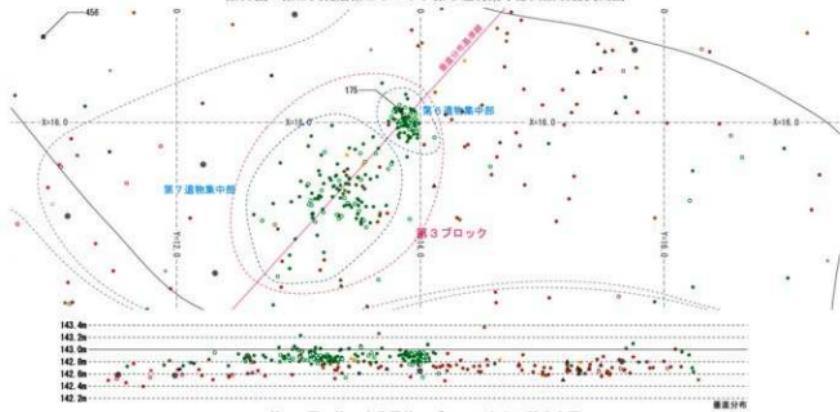
第97図 第Ⅲ文化層第2ブロック出土石器分布図



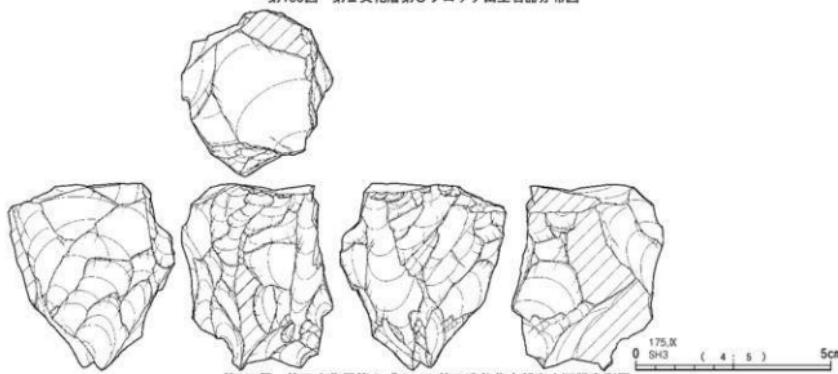
第98図 第Ⅲ文化層第2ブロック第4遺物集中部出土石器実測図



第99図 第3文化層第2ブロック第5遺物集中部出土石器実測図



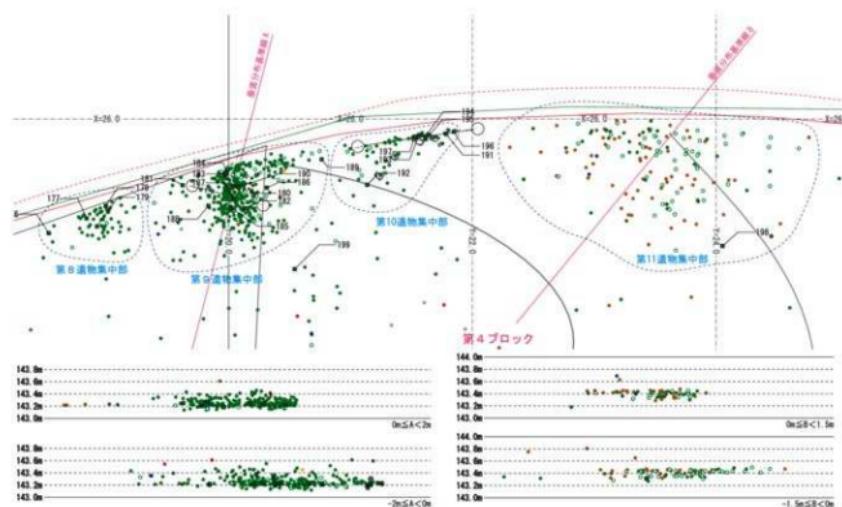
第100図 第3文化層第3ブロック出土石器分布図



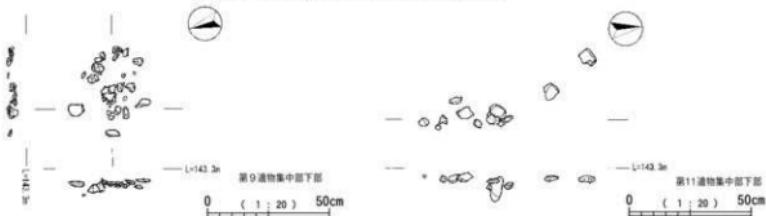
第101図 第3文化層第3ブロック第6遺物集中部出土石器実測図

第14表 第3文化層第2ブロック～第3ブロック出土石器観察表

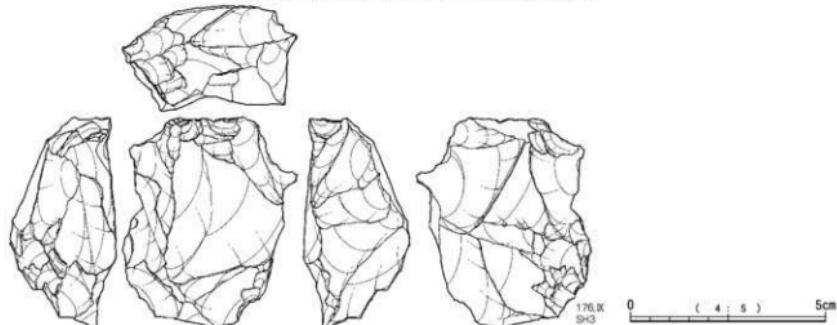
発見No.	回数	到上No.	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	部位	分類1.2	分類3.2	EHL.1	石HR.2	最大幅(mm)	最大深(mm)	重量(g)	参考
98	171	32187	19.223	9.884	142.998	B02	C04	Ⅹ	刃端		SH3	82.2	106.1	123.5	1728	
98	172	32195	19.568	10.191	142.996	B02	C04	Ⅹ	刃端		SH3	31.8	35.2	26.5	32.65	
99	173	33065	19.300	11.861	142.991	B02	C05	Ⅹ	刃端		SH3	38.6	33.4	16.7	16.25	
101	174	29068	18.885	10.831	143.243	B02	C05	Ⅷ	刃端		SH3	28.9	41	29.7	24.84	
	175	23733	16.104	13.835	142.892	B03	C06	Ⅹ	刃端		SH3	46.3	37.7	43	77.15	组合資料No30.K1



第102図 第三文化層第4ブロック出土石器分布図



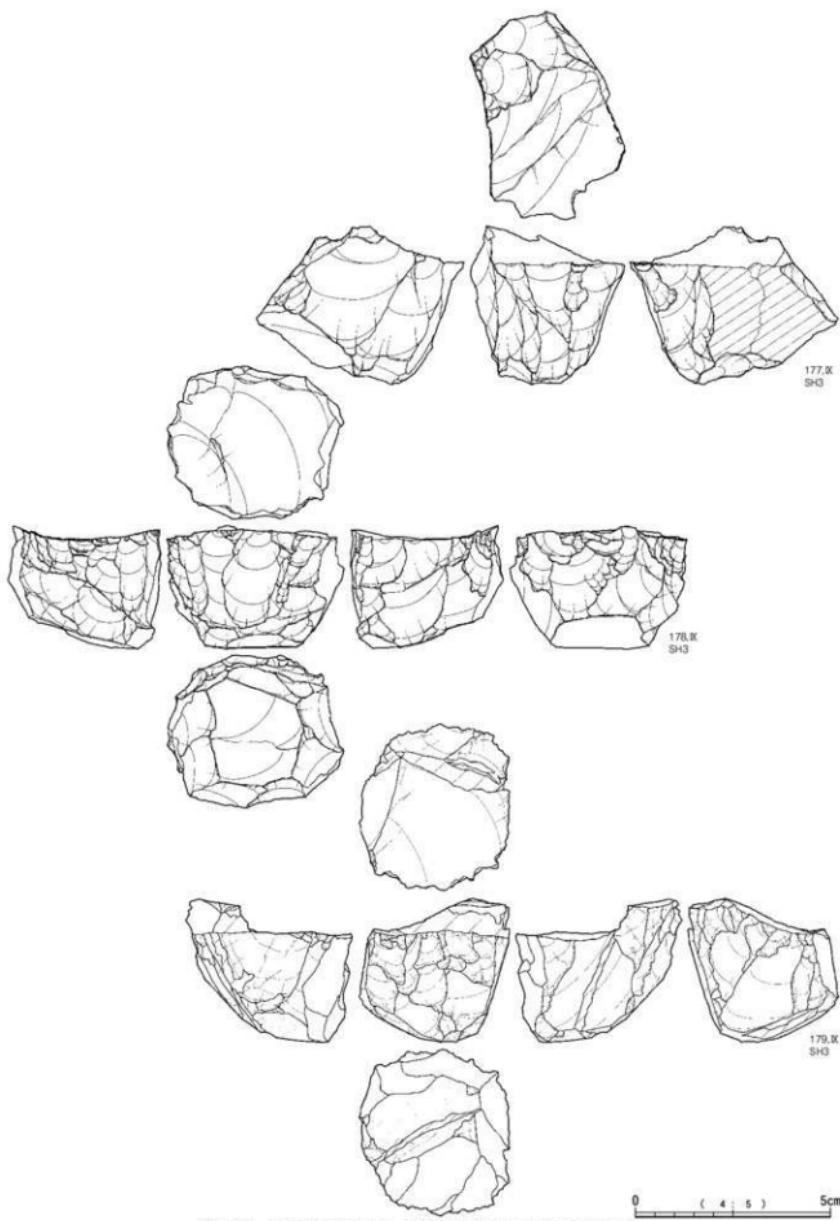
第103図 第三文化層第4ブロック下部石核等出土状況図



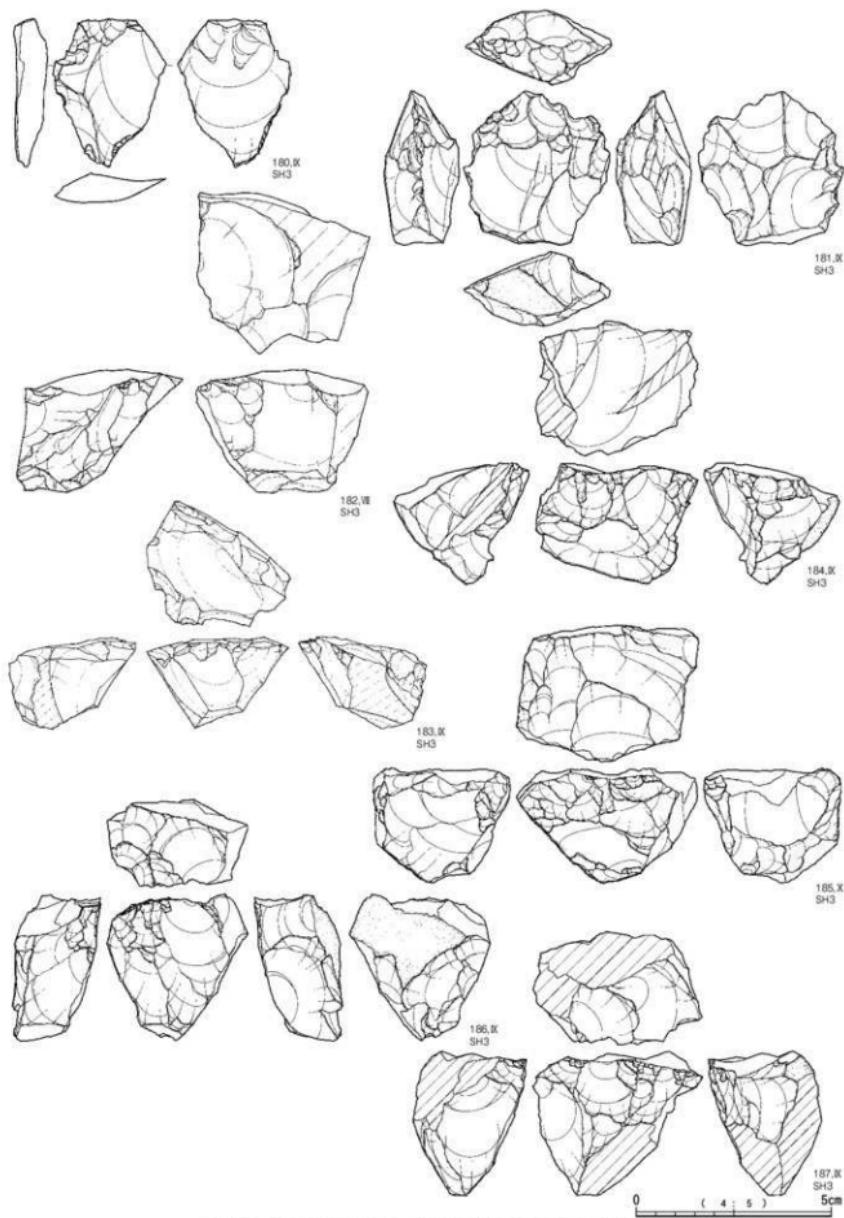
第104図 第三文化層第4ブロック第8遺物集中部出土石器実測図(1)

第15表 第三文化層第4ブロック出土石器観察表(1)

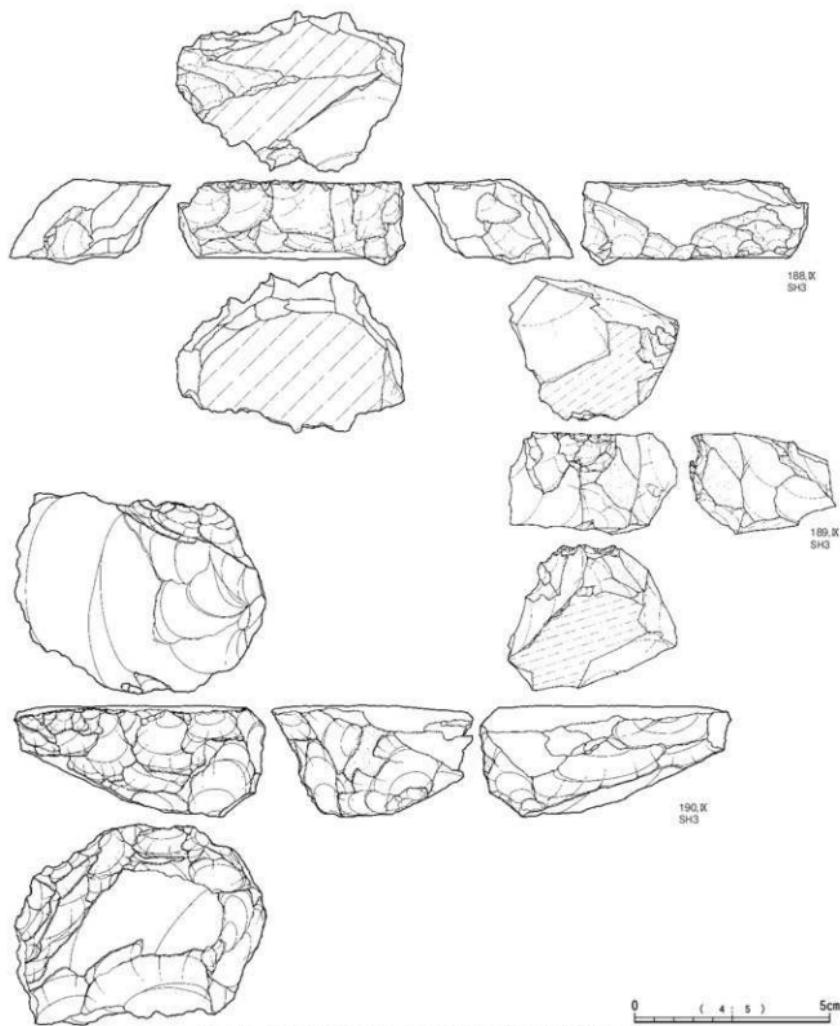
番号	形態	測定No.	X座標	Y座標	石核種	フローラ	集中部	位置	分類I.2	9個.3	EHL1	石核L2	最大長(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考	
104	176	33201	25.065	18.523	143.250	804	C06	X	石核	-	SH3	-	52.5	43.5	27.3	60.01	混合層H40.1F1
	177	33203	25.185	18.834	143.279	804	C06	X	石核	-	SH3	-	39.3	38.3	53.5	64.96	
105	178	60795	25.289	18.992	143.184	804	C06	X	石核	-	SH3	-	30.8	44.1	39.3	72.66	混合層H40.1E1
	179	57242	25.120	18.920	143.202	804	C06	X	石核	-	SH3	-	35.8	37.5	42.7	57.09	混合層H40.1B1



第105図 第III文化層第4ブロック第8遺物集中部出土石器実測図（2）



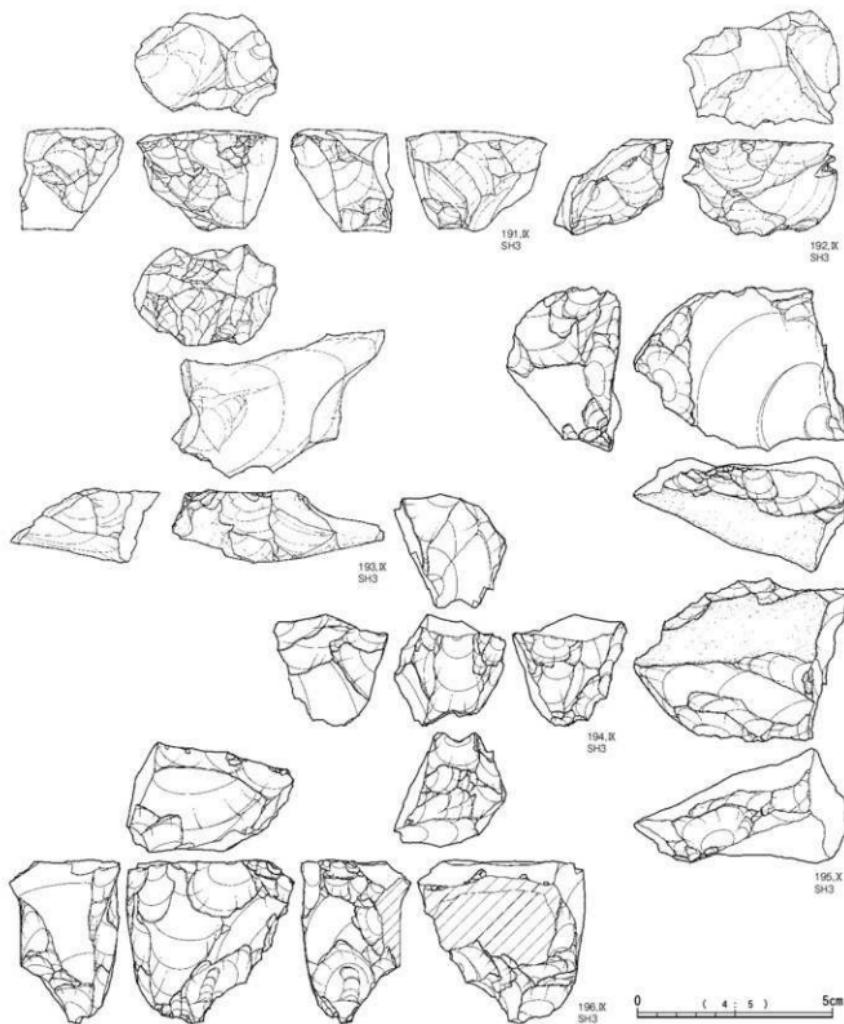
第106図 第Ⅲ文化層第4ブロック第9遺物集中部出土石器実測図(1)



第107図 第III文化層第4ブロック第9遺物集中部出土石器実測図(2)

かし、反転時に細かな調整剥離はほとんど行われていないため残核形状は亀甲状とならず、最終段階の剥離角がかなり深くなった状態で放棄されている。183は剥片素材の石核である。目的的剥片の剥離は素材の主要剥離面側から進められ剥離が極限まで進行しているが、打面と作業面が反転されることはなく専ら主要剥離面側からのみ剥離されているため、最終段階ではかなり剥離角が深くなっている状態で放棄されてい

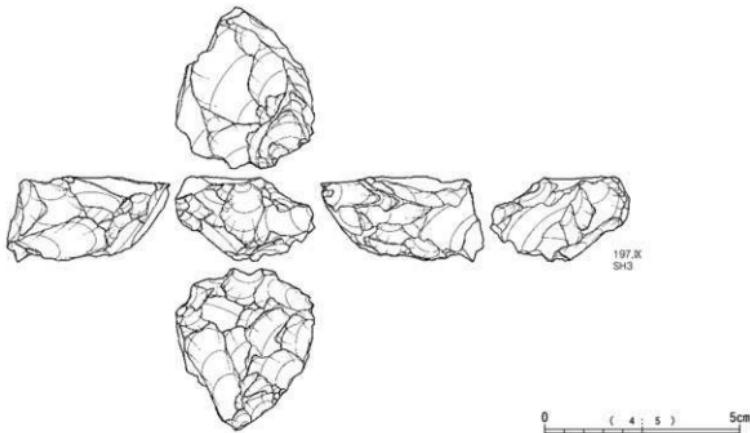
る。184,185は素材形状は不明であるが、いずれも先行剥離面を打面としてほぼ単設打面で目的的剥片の剥離がなされている資料である。概ね限界に近いところまで剥離が進んでいるが、この資料も最終的に作業面の反転などは行われず放棄されている。186は先行剥離面を打面として目的的剥片の剥離が極限まで進められた資料である。187は小型の分割核を素材とする資料である。先行する剥離面を打面として目的的



第108図 第III文化層第4ブロック第10遺物集中部出土石器実測図(1)

剥片の剥離が試みられている。188は厚さ20mm程度のやや薄手の板状素材を石核素材としたものである。平滑な節理面をそのまま打面として利用している。作業面の背面に細かな剥離が観察されるが簡単な整形剥離とみられ、基本的には単設打面で目的的剥片の剥離が進行している。サイズ的にはやや大きめで目的的剥片剥離の若干の継続は可能とみられるが、必要な作業面長の確保が困難と判断したのか、作業面等

が反転されることなくそのまま放棄されている。189は小型の分割縫を素材とし若干の剥片剥離が行われている。あまり剥離が進行しておらず、素材の形状もこれに近いものと推測される。190は剥片素材の石核である。ある程度目的的剥片の剥離が行われた資料とみられるが、本集中部の石核としてはかなり大きく、本集中部では唯一剥離の継続が可能とみられる資料である。



第109図 第三文化層第4ブロック第10遺物集中部出土石器実測図(2)

第4ブロック第10遺物集中部(第108図~第109図:第16表)

第9遺物集中部と隣接して検出された集中部である。調査区境に隣接するため全貌は明らかではないが、剥片類の点数に対して石核の出土点数が多いのが特徴である。下部では比較的大型の剥片及び石核が集中して検出された(第103図)。石器は、石核7点を抽出した。

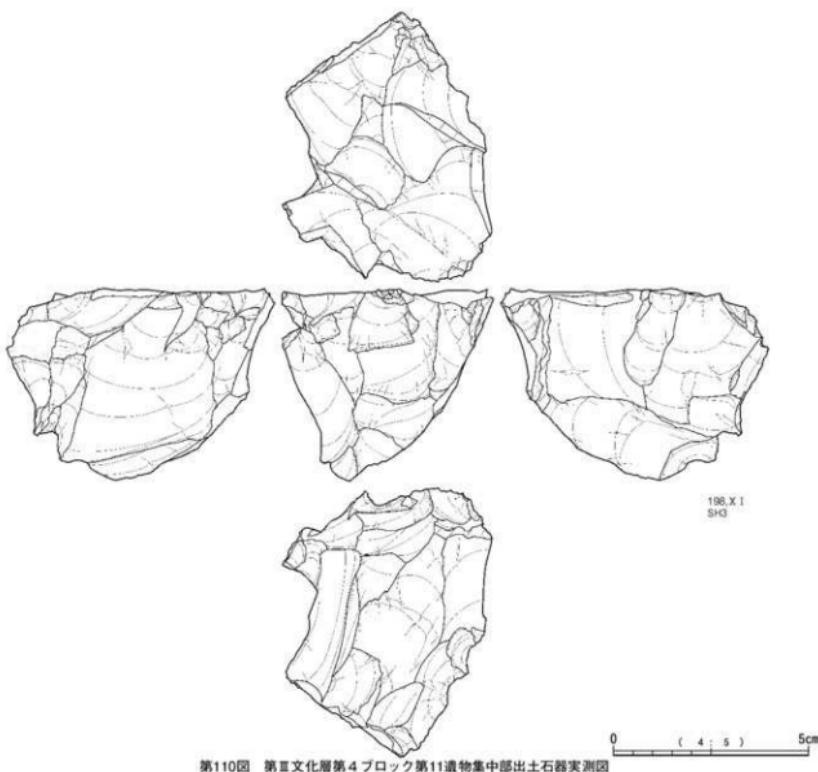
191は厚さ3cm程度の剥片を素材とし、素材の主要剥離面を打面として、基本的に单面で剥離が進行している。剥離はほぼ極限に近い状態まで進行しているが作業面の反転等は行われていない。192は薄手の剥片を素材としている。素材の背面を打面とし主要剥離面側に作業面が形成されており、素材利用はやや変則的であるが、平坦な節理面を打面に利用したもので基本的に素材形状に合わせた技術選択と理解される。素材の頭部側から尾部側に向かって剥離が進行しているが、剥離がかなり進行しており素材形状は不明である。

193は小型の剥片を素材とする。素材の主要剥離面を打面として剥離が進められている。素材の打点を含む比較的多くの

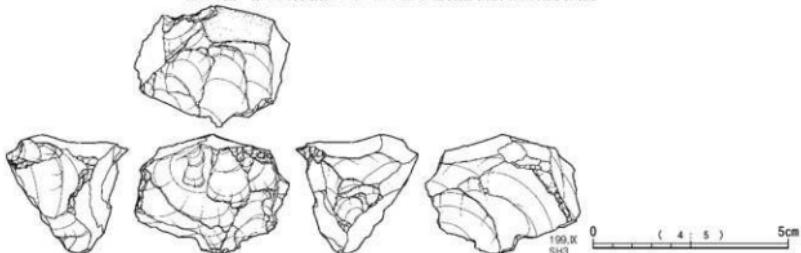
部分が残されており、素材剥片の形状を知ることができる資料である。194も小型の石核である。素材の主要剥離面を打面として剥片剥離を行っているが、極限に近い状態まで剥離が進行しており、残核はサイコロ状を呈する。195は剥片素材の石核である。目的的剥片の剥離を本格的に行うことなく放棄された資料とみられる。196は素材形状は不明であるが、先行する平坦な剥離面を打面とする剥片剥離が行われている。ただし、周縁の石核整形剥離に近い剥離が多く、目的的剥片を主とする作業面形成は弱い。197もおそらく剥片素材の石核とみられるが、剥離がかなり進行しており素材形状は不明である。基本的に周縁部からの求心的な剥離により目的的剥片剥離が進行しており、最終段階では作業面が反転されている。ただし、反転時の剥離は1回のみである。極限まで目的的剥片の剥離が行われた上で放棄された資料とみられる。

第16表 第三文化層第4ブロック出土石器観察表(2)

発見No.	到着No.	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	厚さ	分類1	分類2	分類3	石核1	石核2	最大R(mm)	最小R(mm)	厚さ(d)	備考
106	180	26790	25.401	20.188	143.317	804	C09	X	剥离剥離剥片		SH3	-	36.9	8.9	6.44	
	181	57251	25.458	19.622	143.348	804	C09	X	剥离剥離剥片		SH3	-	38.3	36.5	19.4	22.29 番号H402_B1
	182	19390	25.269	20.134	143.376	804	C09	X	剥离		SH3	-	30.9	42.5	41.5	47.81 番号H41_E1
	183	60732	25.448	20.045	143.219	804	C09	X	石核		SH3	-	23.5	36	32.1	18.81
	184	60740	25.554	19.986	143.219	804	C09	X	石核		SH3	-	30.1	40.3	34.6	37.02 96030_B1
	185	60124	25.273	20.021	143.226	804	C09	X	石核		SH3	-	28.6	45	35.3	56.25
	186	59793	25.437	20.314	143.256	804	C09	X	石核		SH3	-	36.5	35.2	22.9	27.46 96223_B1
	187	60717	25.344	20.046	143.221	804	C09	X	石核		SH3	-	35.8	42.3	29.1	34.97 96302_B1
107	188	57257	25.290	19.834	143.233	804	C09	X	石核		SH3	-	21.5	56.4	41.2	53.9 93245_B1
	189	60653	25.569	20.763	143.200	804	C09	X	石核		SH3	-	26	43	37.1	41.48 95182_B1
	190	60733	25.445	20.083	143.214	804	C09	X	石核		SH3	-	27.7	62.4	51.9	97.53 95286_C1
	191	60643	25.876	21.784	143.238	804	C10	X	石核		SH3	-	25.2	35.1	26.4	-
108	192	59827	25.460	21.137	143.239	804	C10	X	石核		SH3	-	24	38.4	30.3	21.83
	193	60648	25.869	21.563	143.209	804	C10	X	石核		SH3	-	18.4	62.6	36	25.06 95241
	194	60781	25.859	21.616	143.201	804	C10	X	石核		SH3	-	27.8	27.8	29.5	18.2
	195	60622	25.834	21.617	143.157	804	C10	X	石核		SH3	-	28.6	53	42.2	49.13 番号H40_B2
109	196	60641	25.895	21.848	143.218	804	C10	X	石核		SH3	-	40.9	41.7	28.4	50.38
	197	60649	25.856	21.508	143.210	804	C10	X	石核		SH3	-	21.3	34.7	41.6	28.98
	198	44112	24.959	24.054	143.316	804	C11	X	石核		SH3	-	47.7	52.6	69	158.9 96213_D1
110	199	59820	24.769	20.942	143.204	804	-	X	石核		SH3	-	29.8	38.5	31.5	30.26 95179



第110図 第Ⅲ文化層第4ブロック第11遺物集中部出土石器実測図



第111図 第Ⅲ文化層第4ブロック遺物集中部外出土石器実測図

第4ブロック第11遺物集中部（第110図：第16表）

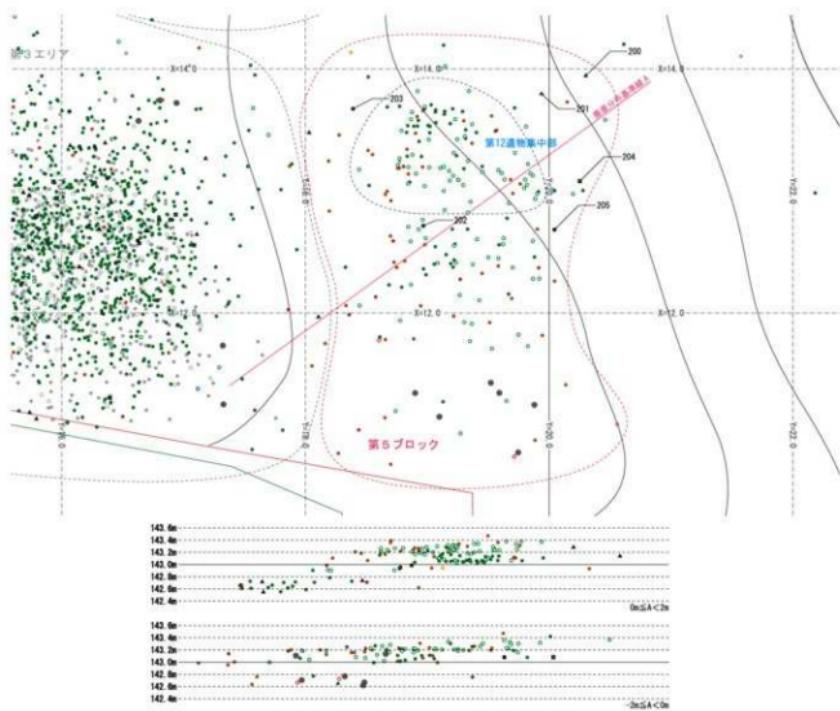
第10遺物集中部から少し離れた位置に緩やかな集中部が形成されている。石核1点のみが抽出される。

198は大型の資料で、先行剥離面を打面としてやや大きめの剥離が各側面に施されているが剥離は必ずしも連続的に行われているわけではなく、剥離目的は不明である。目的的剥片剥離段階に移行する前の状態で放棄された可能性が高い。

第4ブロック遺物集中部外（第111図：第16表）

遺物集中部外から1点の石核を抽出した。

199は剥離がかなり進行しているため素材形状は不明である。ほぼ最終段階まで達した資料とみられ、打面を転回しながら目的的剥片の剥離を行っている。



第112図 第III文化層第5ブロック出土石器分布図

第5ブロック (第112図; 第113図; 第17表)

B-2区に散漫な遺物集中部が形成される地点があり、第5ブロックとした。なかでもやや分布密度が高い範囲があり第12遺物集中部としたが、集中内部では石核等は出土していない。第5ブロックでは削器2点、石核1点、叩石1点を抽出したが、いずれもブロック縁辺部からの出土であり遺物集中部との関連は不明である。この他、剥片2点を掲載する。

200は削器である。頁岩Ⅲ類を素材とするもので、節理面に沿って剥離した薄い板状の素材を利用している。縁辺に両面から整形剥離を施し、さらに細かい二次加工を裏面側に向かって施して刃部を形成する。特に先端部付近の刃部角は急角度をなすため、搔器的な用法も想定される。下半部は欠損しており全体形は不明である。201も削器であるが、頁岩Ⅳ類を素材とするものである。第III文化層にはこれを素材とする資料はなく、遺跡外からの搬入品か下層からの浮き上がり

資料とみられる。出土層位を考慮して第III文化層に位置づけた。

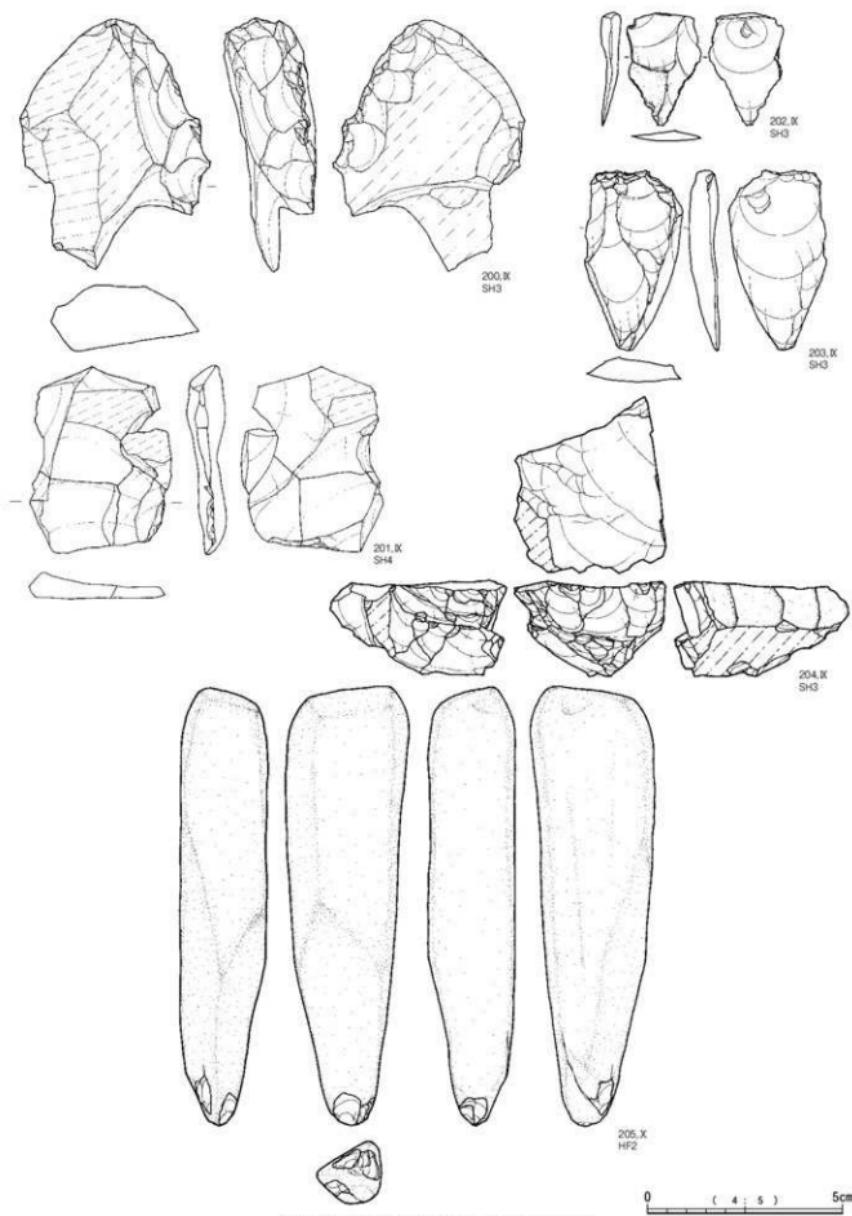
202・203は剥片である。202は灰褐色、203は黒色に近い色調を呈する個体を素材とする。

204は石核である。白色節理の入る個体でやや灰褐色に近い色調を呈するが、202とは別個体である。平坦な先端剥離面を打面として剥離を進行させているが、専ら打面を固定し、作業面の反転等は行われていない。比較的小型の資料で、極限に近い状態まで剥離が試みられて放棄されたものとみられる。

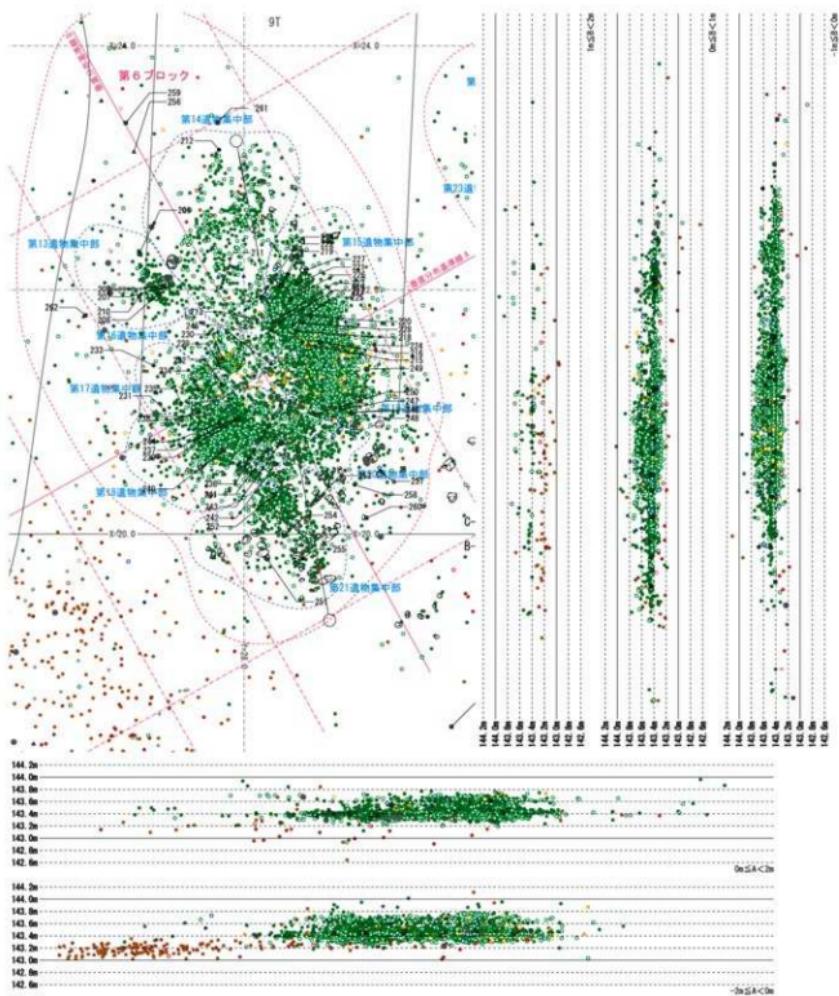
205は叩石である。棒状のホルンフェルス礫を素材とし、鋸く尖った先端部には衝撃剥離が観察される。敲打痕も僅かに観察されるものの明確な面を形成するには至っておらず、使用頻度はそう高くないものと推定される。

第III文化層第5ブロック出土石器観察表

発見No.	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	層位	分類1	分類2	石核1	石核2	最大長(mm)	最大幅(mm)	重量(g)	備考
113	200	34847	13,944	20,300	143.145	805	-	X	石核	SHD	-	65	49	23.8	50.59
	201	28276	13,795	19,937	143.291	805	-	X	石核	SHE	-	36.3	47.8	10.4	12.6
	202	36009	12,716	18,967	142.993	805	-	X	石核	SHD	-	28.1	18.7	5.5	1.5
	203	34843	13,672	18,391	142.997	805	-	X	石核	SHD	-	44.8	24.5	8.1	8.35
	204	43809	13,080	20,252	143.082	805	-	X	石核	SHD	-	24	37.8	45.3	42.4
	205	41737	12,883	20,043	143.081	805	-	X	剥離	HFD	A	112.6	36.5	23.1	109.19



第113図 第Ⅲ文化層第5ブロック出土石器実測図



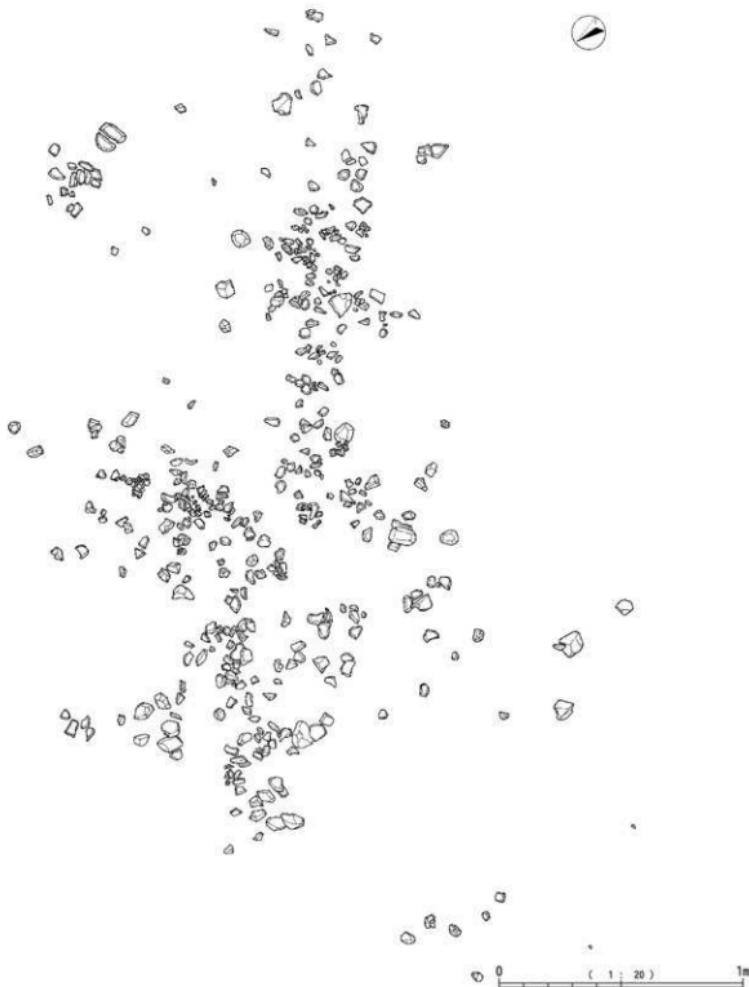
第114図 第三文化層第6ブロック出土石器分布図

第6ブロック（第114図）

C-3区に形成された非常に大型のブロックである。径4m程の範囲に、濃密な遺物集中部が複数形成され、合計9か所の遺物集中部を設定した。石材は頁岩Ⅲ類が主体となり、黒曜石Ⅰ類と玉髓Ⅱ類がごく僅かに組成される。特に頁岩系石材については、ブロックの下部から大型の石核や剥片等が密集して出土しており、良好な状態で検出された（第115図）。

ブロック内では頁岩のはか黒曜石Ⅰ類と玉髓Ⅱ類も客体的

に組成されている。ただし、これらの分布状況は比較的散漫で明確な密集部の形成が弱いため、頁岩Ⅲ類を主体として設定した遺物集中部に帰属させることは困難であった。従って、これらの石材については平面的分布により便宜的に各遺物集中部に沿って掲載する。また、ブロック内の第13遺物集中部付近及び第19遺物集中部と第20遺物集中部の境界付近からは、砂岩を主体とする被破砕礫がやや集中して出土している。これらは石核等に混在する状況で出土し明確に遺構と



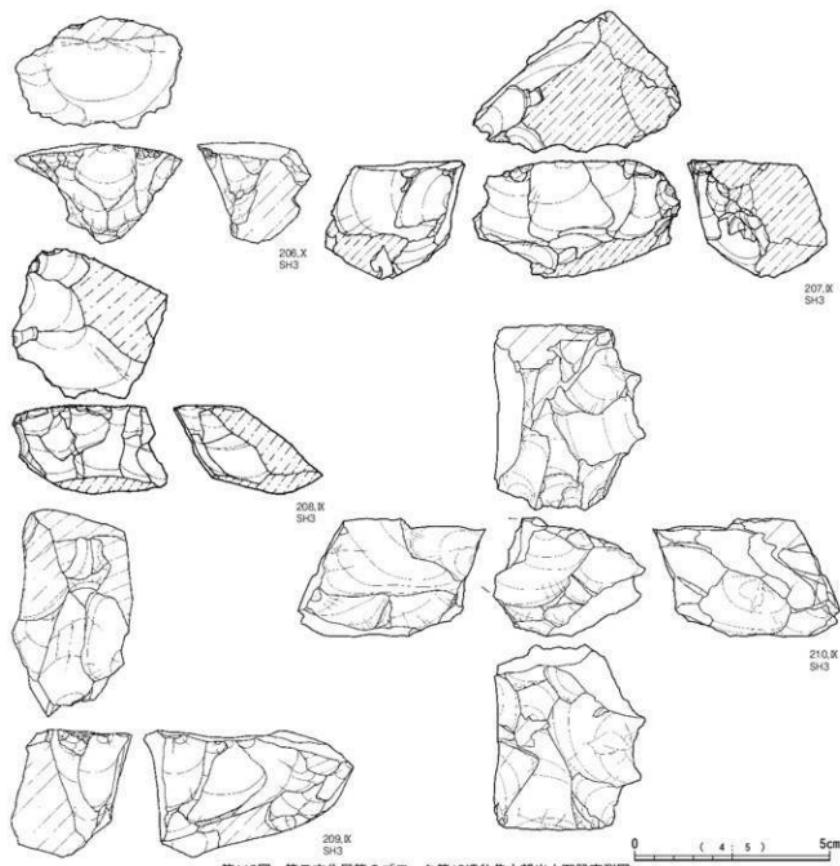
第115図 第三文化層第6ブロック下部石核等出土状況図

して認定できる状況ではなかったが、付近に礫群等が存在した可能性を考慮する必要が生じるため、注意が必要である。第6ブロック第13遺物集中部（第116図：第18表）

第6ブロックの西側に位置する比較的の密度の高い集中部である。下部には比較的大型の剥片や石核等の密集部が検出されている。石核5点を抽出した。

206は剥片素材の石核である。石材は比較的珪質分に富む黒色良質の個体で素材の主要剥離面を打面として素材の尾部

側から剥離を進めている。素材の頭部を残す形で極限に近い状態まで剥離を行い、放棄している。207は節理面に沿って剥離した厚さ3cm程度の板状難をさらに分割した厚手の剥片状の素材を使用するもので、作業面下部に最終分割面の一部が残されており、平坦な節理面を打面に、最終分割面を作業面に設定して剥片剥離を行っている。基本的には素材を一方から割り進めており、左側面および作業面の右周縁にみられる数枚の剥離は石核整形剥離の可能性が高い。208は剥片



第116図 第III文化層第6ブロック第13遺物集中部出土石器実測図

素材の石核である。206と同様、素材剥片の主要剥離面を打面にして素材の尾部側から剥離を進行させている。剥離はほぼ極限まで進行しており、最終段階では作業面が右側縁の一部に回り込み、左側面では作業面を反転して数枚の剥離が行われている。反転後の剥離は目的的剥片の可能性があるが、数枚の剥離が施されたのみで作業面として継続せず、そのまま放棄されている。209は小型の分割剥片を素材とする石核である。節理面等の観察から石核素材の形状はそう大きく変わっていないとみられる。平坦な先行剥離面を打面として目的的剥片を数枚剥離した様子が窺える。若干の剥離の継続は可能とみられる資料であるが、作業面に残された剥離面の主軸長は20mmに近く、素材の形状がややいびつなためそのまま放棄されている。210はやや珪質分に富む黒色良質の個体を使用している。素材形状は不明であるが、大型の剥片な

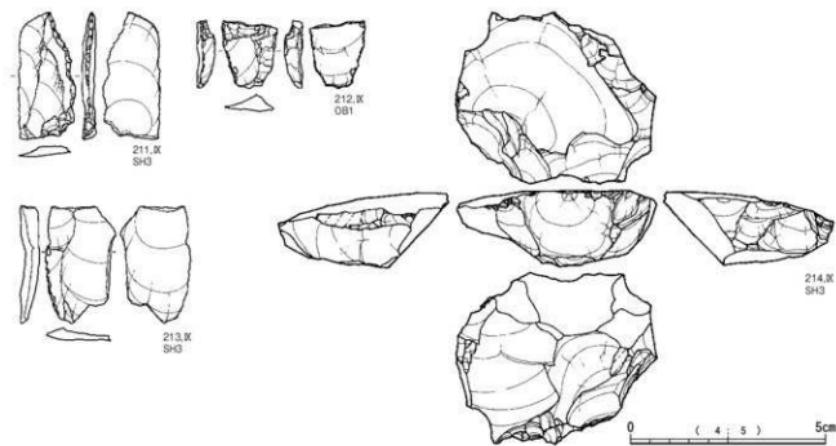
いし分割剥片を使用している。目的的剥片の剥離は先行剥離面を打面として、打面を半周するように順次打点を移動しながら剥離を行い、最終段階で作業面等を反転して数枚の剥離を行い、そのまま放棄している。

第6ブロック第14遺物集中部（第117図；第18表）

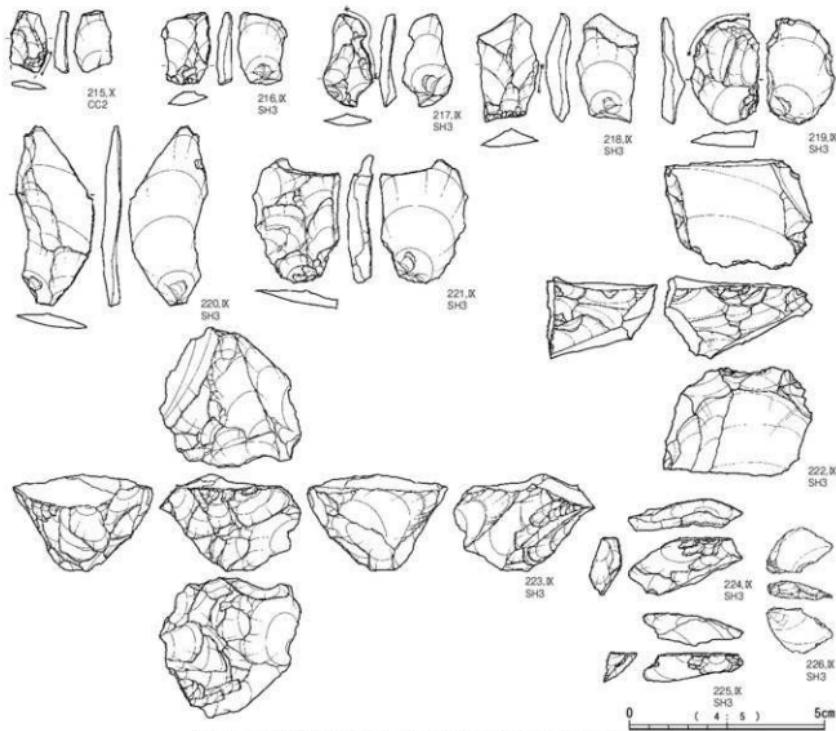
第13ブロックに隣接して形成された比較的緩慢な遺物集中部で、下部には石核等の集中部が僅かに形成されている。

石器はナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片2点、石核1点を組成する。

211はナイフ形石器で主軸長30mm程度の綫長剥片を素材とし、主に正面右側縁の中央部から先端部にかけて二次加工を施して製品としている。212は黒曜石1類を素材とする微細剥離痕剥片で、尾部のみの資料であるが正面右側縁に微細



第117図 第三文化層第6ブロック第14遺物集中部出土石器実測図



第118図 第三文化層第6ブロック第15遺物集中部出土石器実測図 (1)

剥離痕が観察される。213も微細剥離痕剥片である。頭部が欠損しているが、やや珪質分に富む黒色良質な頁岩を素材としており正面左側縁の中央部から尾部にかけて連続的な微細剥離痕が観察される。

214は石核である。薄手の剥片を素材としており、素材の主要剥離面を打面として目的的剥片の剥離を行っているが、素材が非常に薄いためか、数枚の剥離を行ったのみで作業面等の反転を行うことなくそのまま放棄している。打面周縁に観察される剥離痕は主に節理に継起されたものであり、石核整形には直接関係ない。

第6ブロック第15遺物集中部（第118図～第119図；第18表）

第6ブロックでは遺物の分布密度が比較的高い区域に位置し、剥片等に伴って多量の碎片が出土している。下部では大型の石核や調片等が多量に出土している。石器はナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片5点、石核4点を抽出した。この他、剥片1点と調整剥片3点を抽出した。

215は玉髄II類を素材とするナイフ形石器である。基部は欠損しているが正面右側縁の基部付近に僅かな二次加工が観察される。

216～220は微細剥離痕剥片である。216は主軸長20mm程度の比較的小型の剥片を素材としている。微細剥離痕は正面左側縁に断続的に観察される。217も主軸長20mm程度の比較的小型の剥片の左側縁先端部から中央部に、僅かに微細剥離痕が観察されるものである。218は主軸長25mm程度の剥片の正面左側縁付近に微細剥離痕が集中して観察できる。219は剥片の尾部付近に微細剥離痕が連続的に観察される。220はこれらよりはやや大きく主軸長45mm程度の縱長剥片を素材とする。微細剥離痕は正面左側縁の基部から中央部にかけて集中して形成されており、微細剥離痕の後線の一部は僅かながら摩滅が認められる。微細剥離痕剥片の中でも使用痕の可能性が高い資料である。

221は剥片である。尾部が欠損している。

第18表 第III文化層第6ブロック出土石器観察表（1）

発見No.	石器No.	X座標	Y座標	Z座標	ブロック	集中部	属性	半径L2	全幅L3	EHL1	EHL2	最大長(mms)	最大幅(mms)	最大厚(mms)	重さ(g)	備考
116	206	41748	22.295	27.139	143.324	806	C13	X	EHL	SH3	-	24.9	41.1	26.9	24.42	混合質Hn45_B1
	207	27986	22.022	27.332	143.374	806	C13	X	EHL	SH3	-	29.5	51.7	36.3	47.6	混合質Hn71_H1
	208	27989	21.971	27.304	143.389	806	C13	X	EHL	SH3	-	22.3	38.5	38.7	27.37	混合質Hn44_C1
	209	27993	22.035	27.344	143.380	806	C13	X	EHL	SH3	-	31.8	29.8	53.2	50.39	混合質Hn43_E1
117	210	30995	21.943	27.138	143.397	806	C13	X	EHL	SH3	-	29.7	37.8	47.8	48.07	混合質Hn69_H1
	211	24016	22.020	27.812	143.433	806	C14	X	ナイフ形石器	SH3	-	31.7	14.4	4	1.35	
	212	21910	23.148	27.793	143.614	806	C14	X	微細剥離痕剥片	OB1	-	16.9	14	5	0.9	
	213	24169	21.755	28.104	143.905	806	C14	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	29.2	17.8	5.3	1.49	SG041_F3
	214	27680	21.938	28.141	143.441	806	C14	X	石核	SH3	-	19.2	49.8	44.1	36.22	SG008_F1
118	215	36790	21.547	28.529	143.414	806	C15	X	ナイフ形石器	CG2	-	15.5	9.7	3.9	0.27	
	216	20538	21.515	28.616	143.539	806	C15	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	18.2	12.4	4.1	0.78	混合質Hn52_C4
	217	25093	21.739	28.289	143.469	806	C15	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	23.3	12.6	4.6	0.81	
	218	23463	21.663	28.426	143.575	806	C15	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	27.1	15.6	6.6	1.75	
	219	29672	22.033	28.301	143.456	806	C15	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	26.6	17.2	6.3	1.78	
	220	25238	21.789	28.541	143.486	806	C15	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	44.7	19.8	5.3	2.75	SG270_A2
	221	32921	22.053	28.427	143.446	806	C15	X	剥片	SH3	-	30.8	22.1	6.9	2.88	
	222	27966	22.041	28.303	143.434	806	C15	X	石核	SH3	-	20.7	36.8	26.3	22.13	混合質Hn53_B1
	223	29969	21.740	28.245	143.442	806	C15	X	石核	SH3	-	24.3	35.2	36.2	23.88	
	224	23548	21.560	29.067	143.486	806	C15	X	剥離片	SH3	-	14.6	28.4	8.5	1.68	混合質Hn54_B3
119	225	25100	21.713	28.398	143.514	806	C15	X	剥離片	SH3	-	7.4	24.9	8.8	0.84	
	226	25219	21.908	28.383	143.466	806	C15	X	剥離片	SH3	-	11.6	16.5	5.2	0.58	
	227	27610	22.159	28.506	143.453	806	C15	X	石核	SH3	-	32.1	59.4	62.2	82.33	混合質Hn46_E1
	228	27599	21.734	28.474	143.409	806	C15	X	石核	SH3	-	88	105.6	67.6	535	混合質Hn55_D1
	229	54211	21.382	27.797	143.303	806	C16	X	ナイフ形石器	OC2	-	15.8	7.8	3.4	0.22	
120	230	22723	21.437	27.803	143.542	806	C16	X	微細剥離痕剥片	SH3	-	29.4	16.6	4.6	1.56	

222.223は石核である。222は剥片素材の石核で素材の主要剥離面を打面として素材の頭部側から剥片剥離を進行させている。作業面は1面のみで打面の反転や転移などはほとんど行われずそのまま放棄されている。極限まで剥離が進行した資料はあるが、元々の素材形状が大きくなはないため、本格的な作業面が形成され打面転移等の必要が生じる前に放棄されたものと推測される。223は剥片素材の石核である。剥離がかなり進行しており初期段階の剥離の状況は不明であるが、基本的には先行剥離面を打面として目的的剥片の剥離が行われている資料である。比較的平坦な先行剥離面を利用し順次打面を転移しながら剥離が進行したと考えられ、数面の作業面が形成されている。残核形状は剥片素材の心求面剥離型石核とさほど変わらないが、打面に観察される剥離はいずれも打点が比較的遠い位置にあり、剥離が極限に達する前に施されたものである。

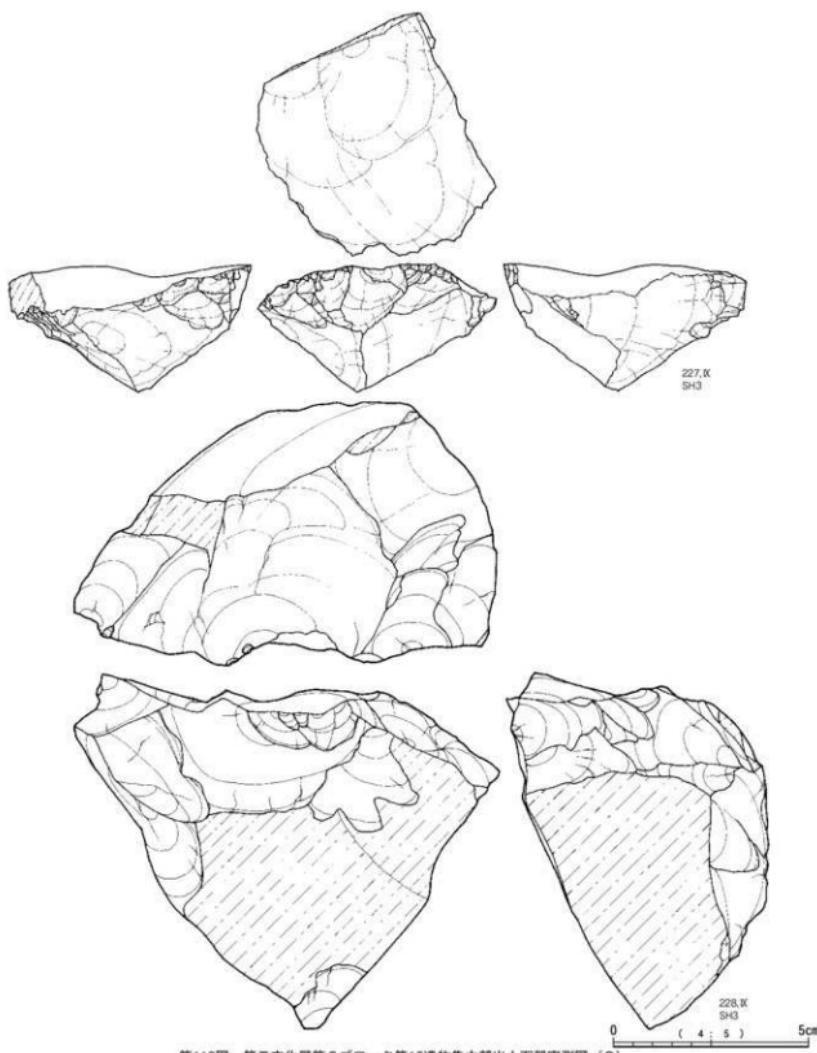
224～226は調整剥片である。石核の周縁部付近に施された石核調整剥片の可能性が高い。

227.228は比較的大型の石核である。227は大型の剥片を素材とし、素材剥片の主要剥離面を打面として剥片剥離が行われている。やや簡略が発達する個体のためか、尾部付近の一部に数枚の剥離を入れただけ放棄されている。228は大型の礫を素材とする資料である。やや大きめの剥離によって石核整形を試みた跡があるが、明確な作業面を形成することなく作業途中で放棄されている。本遺跡の石核類の中では171に次いで大型の資料である。

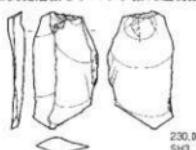
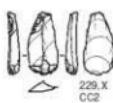
第6ブロック第16遺物集中部（第120図；第18表）

第14遺物集中部と第17遺物集中部の中間に形成された比較的分布密度の低い小規模な遺物集中部である。ナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片1点を抽出した。

229は玉髄II類を素材とし、基部に二次加工を加えて製品としたもので、正面左側縁先端部には微細剥離痕が観察される。230は頁岩を素材とする微細剥離痕剥片である。正面左

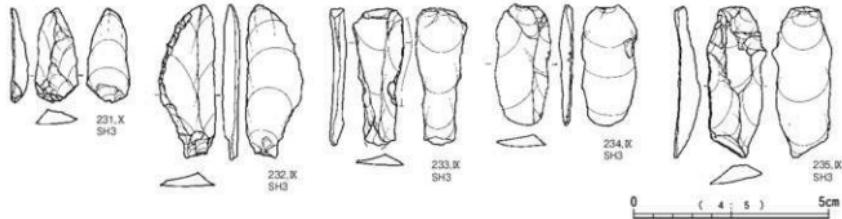


第119図 第III文化層第6ブロック第15遺物集中部出土石器実測図(2)



0 (4) 5cm

第120図 第III文化層第6ブロック第16遺物集中部出土石器実測図



第121図 第Ⅲ文化層第6ブロック第17遺物集中部出土石器実測図

側縁尾部付近と尾部に僅かな微細剝離が観察される。

第6ブロック第17遺物集中部（第121図；第19表）

遺物量の多い第18遺物集中部に隣接する集中部で、径40cm程度の範囲に剥片の密集部が形成されているため、集中部として認定した。石器はナイフ形石器2点、微細剝離痕剥片3点を抽出した。いずれも頁岩を素材とするもので主軸長25mm～35mm程度の剥片を素材とする。

231はナイフ形石器である。基部に簡単な二次加工がみられる。正面左側縁先端部付近には微細剝離痕が観察される。232もナイフ形石器である。主軸長35mm程度の縱長剥片を素材とし正面左側縁中央部から先端部にかけて細かい二次加工を連続的に施している。また、反対側の右側縁の一部には、部分的に微細剝離痕が観察される。

233～235は微細剝離痕剥片である。233は正面右側縁の基部から中央部にかけて、234は裏面右側縁の中央部から尾部にかけて、235は正面左側縁の中央部から尾部にかけて連続的な微細剝離痕が観察される。

第6ブロック第18遺物集中部（第122図；第19表）

第19遺物集中部の対面に形成された遺物量の多い集中部である。頁岩Ⅲ類を主体とし、下部には大型の剥片や石核等の密集部が検出された。石器はナイフ形石器2点、石核5点を抽出した。この他に、剥片1点、調整剥片1点を掲載する。

236はナイフ形石器である。正面右側縁中央部付近に僅かながら二次加工が認められる。基部は欠損している。珪質分の少ないや粗質な個体を素材としている。237もナイフ形石器で白色の層理が入る灰褐色の個体を素材とする。正面右側縁の基部付近の一部と正面左側縁の先端部付近に微細な加工痕が看取される。

238は剥片である。237と比較するとやや黒みを帯びる灰褐色の個体である。

239～243は石核である。239は厚手の剥片を素材とし、素材剥片の主要剝離面を打面として目的的剥片の剝離を行っている。剥離は素材剥片の側縁方向から進められており、若干の剥離の継続が可能とみられるが、ある程度剥離が進行した段階で放棄されている。240.241は上面觀が誤形を呈し、極めてよく似た形状を呈する石核である。素材形状は不明であるが、厚さ3cm～4cm程度の分割剥片もしくは剥片を素材とするものとみられる。いずれも最終段階に近い状況まで剥

離が進行している。両方とも最終作業面に至る前に一度打面と作業面を反転し、やや大きめの剥離によって石核形状を整形した後、本来の作業面に戻って目的的剥片の剝離を継続している。240は最終局面で再度作業面を反転し、目的的な剥離を試みた後に廃棄されている。241は反転後最終作業面に移行した後はそのまま最後まで剥離を継続し、打面と作業面の交叉角度を適正に保てなくなるまで剥離を継続し、その後は作業面等の反転を行うことなくそのまま放棄している。242.243も最終段階の石核形状こそ異なるものの、基本的な剥離方法は240.241と同様とみられる。

244は石核側面から加熱された打面再生剥片である。

第6ブロック第19遺物集中部（第123図；第19表）

第14遺物集中部に隣接し、第15遺物集中部、第18遺物集中部と並んで遺物量が多い集中部である。これらの集中部と同様、下部からは大型の剥片や石核等の集中部が検出されている。石器は削器1点、微細剝離痕剥片2点、石核1点を抽出した。この他、剥片1点を掲載する。

245は削器である。台形石器の可能性もあるが、加工が左側縁のみで急斜度ではないこと、縁辺に微細剝離痕が連続的に形成されていることなどから削器と判断した。

246.247は微細剝離痕剥片である。246は主軸長35mm程度の縱長剥片を素材とする。微細剝離痕は両側縁及び先端部付近に断続的に認められる。247も剥片形状は異なるが、基本的には縱長剥片を目的とする剥片剝離の過程で生じた剥片を素材とする。正面右側縁の一部に、僅かな微細剝離痕が認められる。

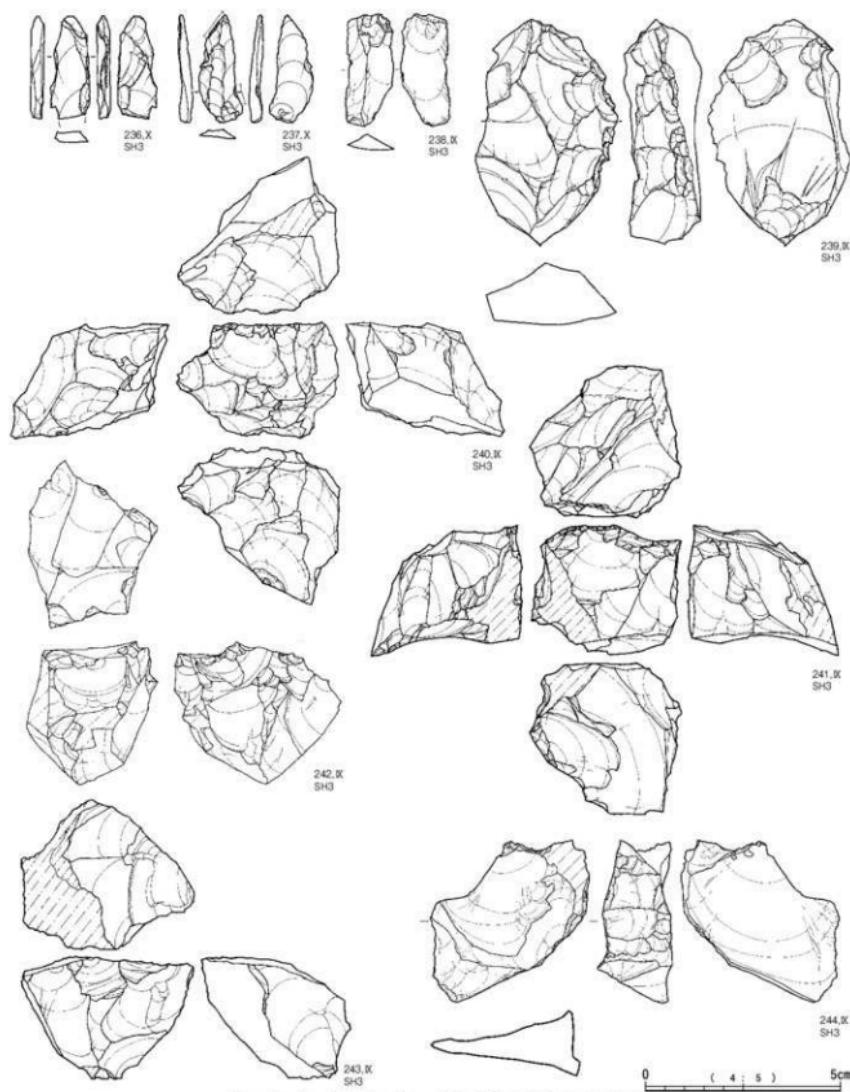
248は剥片である。黒曜石Ⅰ類を素材とする。

249は石核である。最終段階で打面と作業面を反転させており、残核形状は亀甲状を呈する。比較的小型の資料で、目的的剥片の剝離は極限まで進行させた上で放棄されたものとみられる。

第6ブロック第20遺物集中部（第124図；第19表）

第19遺物集中部、第18遺物集中部、第21遺物集中部に埋もれたやや分布密度の薄い位置に形成されている。下部に大型剥片や石核等の密集部は検出されていない。

石器は調整剥片を1点のみ抽出した。250は珪質分の少ないや粗質の個体を素材とする。石核周縁部の石核整形に伴う整列剥片とみられる。



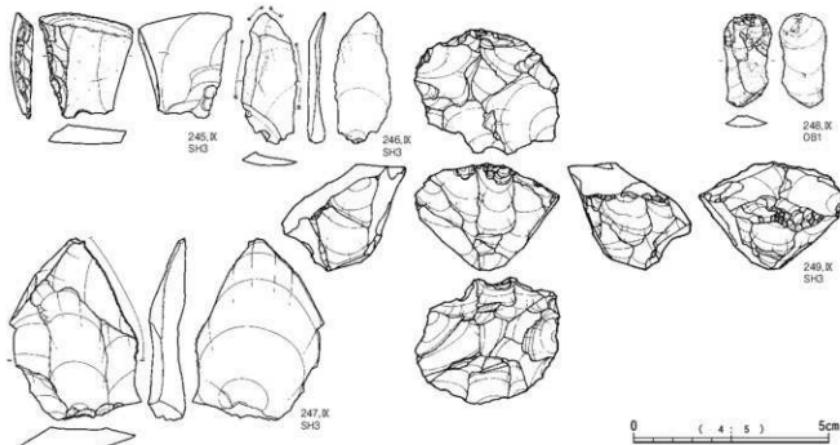
第122図 第三文化層第6ブロック第18遺物集中部出土石器実測図

第6ブロック第21遺物集中部 (第125図; 第20表)

第6ブロックの縁辺に位置する遺物集中部である。範囲内に径50cm程の剥片等の遺物集中部が形成されており周辺の下部には大型の剥片や石核等の密集部が検出されている。

石器は、石核4点と叩石1点を抽出した。

251は剥片素材の石核である。素材の主要剥離面を打面として素材の打点側から目的的剥片の剥離を進行させている。剥離作業は最終段階に近いところまで進行している可能性がある。



第123図 第III文化層第6ブロック第19遺物集中部出土石器実測図

された剥離面の主軸長は30mm程度である。253は剥片素材の石核である。基本的に素材剥片の尾部側から剥離が進んでいるが最終段階で数回にわたり打面と作業面が反転されている。比較的薄い形状のためか、剥離角はかなり深くなっている。254は比較的大型の石核である。厚手の剥片を素材とし、素材の主要剥離面を打面として求心的な剥離が行われている。作業面等の反転等は行われず、残核形状は円錐形を呈する。作業面に残された剥離面の主軸長は25mm程度である。

255は叩石である。輝石安山岩を素材とするもので、先端部のみで欠損しているものの、円錐の一端に顕著な敲打痕が形成されている。

第6ブロック遺物集中部外出土石器（第126図；表20）

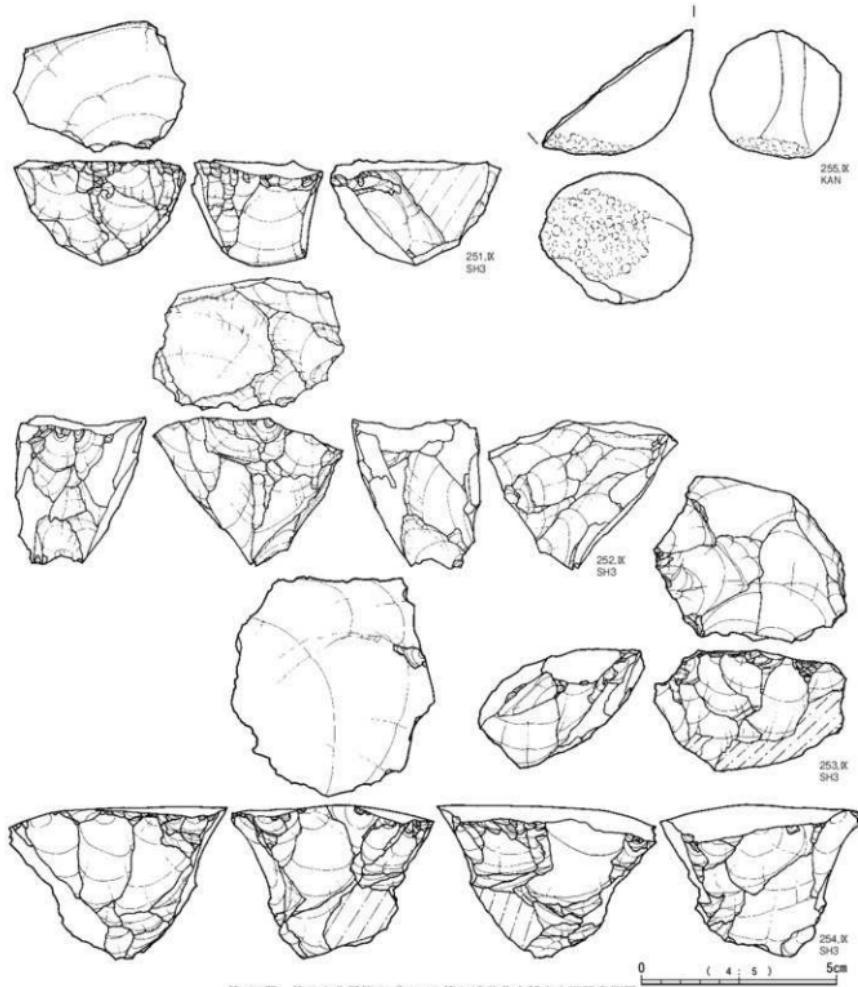
ナイフ形石器1点、石核4点を抽出した。この他、剥片2点を掲載する。

256はナイフ形石器である。比較的珪質分に富む黒色良質

第124図 第III文化層第6ブロック第20遺物集中部出土石器実測図
高いが、打面と作業面の反転等は行われていない。作業面に観察される剥離面の主軸長は20mm程度である。252は251と比べるとやや大きめの状態で放棄された資料である。平坦な先行剥離面を打面とする作業面が表裏に設定されて剥離が進められている。それぞれ異なる平坦面を打面にしているため、残核形状は斜め円錐形に近い形状を呈する。作業面に残る第19図

第III文化層第6ブロック出土石器観察表（2）

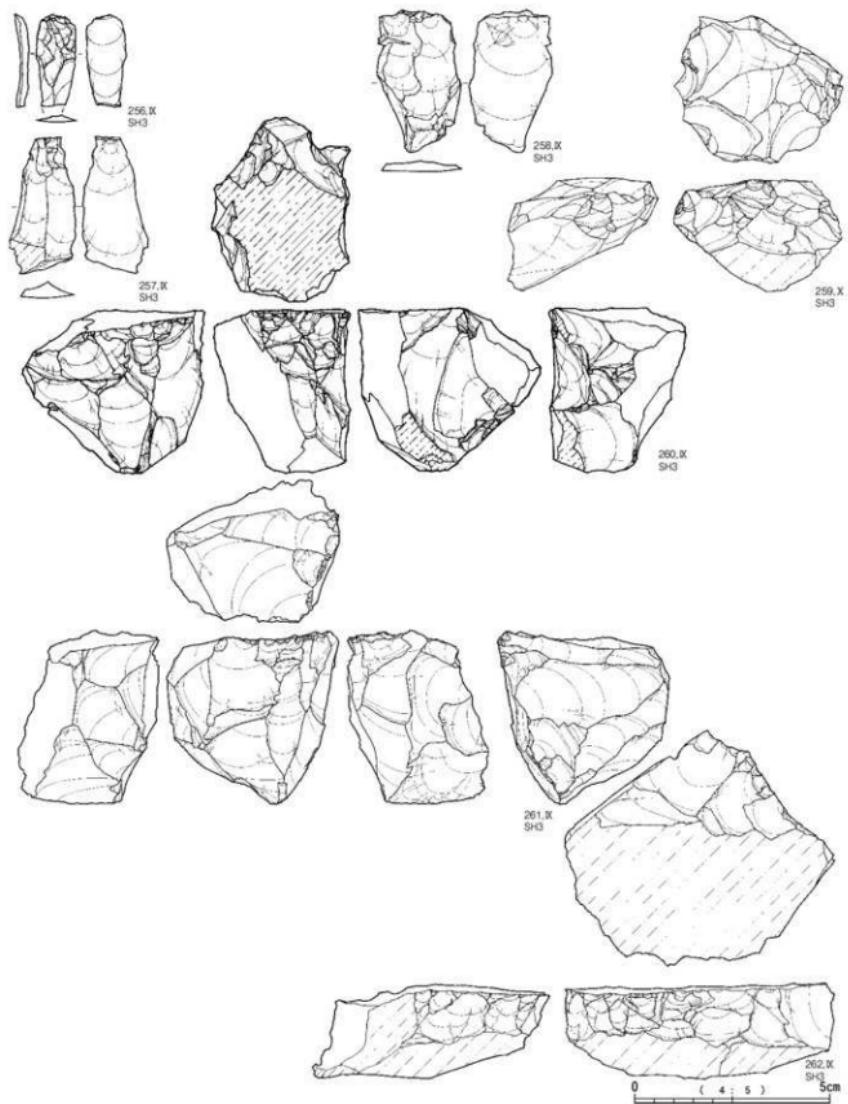
標印No	出土地名	Ez.No	層位	Y座標	Z座標	プロトクル	集中部	部位	分類L2	分類L3	EH1.1	石核L2	最大厚さmm	最大幅mm	最大厚mm	重量(g)	備考
121	231	39945	21.916	27.344	143.356	806	C17	X	ナツモ形石核	SH3	-	23.5	11	4.7	0.69		
	232	24257	21.226	27.818	143.407	806	C17	X	ナツモ形石核	SH3	-	38.1	14.4	4.8	1.86	合せ資料No.6_A2	
	233	23911	21.381	27.256	143.466	806	C17	X	圓錐形剥離剥片	SH3	-	34.1	12.9	4.4	1.09		
	234	29643	21.183	27.622	143.422	806	C17	X	圓錐形剥離剥片	SH3	-	30.3	13.9	3.8	1.47		
122	235	31700	21.671	27.482	143.396	806	C17	X	圓錐形剥離剥片	SH3	-	37.6	15	7.1	2.08		
	236	39668	21.062	28.299	143.410	806	C18	X	ナツモ形石核	SH3	-	25.6	10	3.8	1.05	SG229_C1	
	237	52127	20.940	27.923	143.370	806	C18	X	ナツモ形石核	SH3	-	26.9	11.1	3.9	0.56		
	238	33044	20.994	27.623	143.406	806	C18	X	剥片	SH3	-	28.1	12.5	5.1	1.22		
123	239	30066	20.939	27.952	143.415	806	C18	X	石核	SH3	-	56.4	38.4	20.3	38.33	合せ資料No.9_G1	
	240	27731	20.665	27.831	143.417	806	C18	X	石核	SH3	-	29	40.3	40.3	42	合せ資料No.9_Z1	
	241	27806	20.684	28.194	143.419	806	C18	X	石核	SH3	-	32.3	37.4	39.1	45.12	合せ資料No.8_V1	
	242	27804	20.574	26.256	143.430	806	C18	X	石核	SH3	-	36.8	33.6	42.8	42.0	合せ資料No.6_M1	
124	243	27811	20.753	28.304	143.450	806	C18	X	石核	SH3	-	30.7	43	38.5	37.9	合せ資料No.7_J1	
	244	29498	20.910	27.792	143.415	806	C18	X	剥離剥片	SH3	-	40.4	39.5	19.4	32.32	合せ資料No.6_G1	
	245	25352	21.391	28.391	143.548	806	C19	X	剥離	SH3	-	26.2	23.3	5.9	3.2	SG235_C4	
	246	25139	20.994	26.878	143.471	806	C19	X	圓錐形剥離剥片	SH3	-	32.6	14.3	4.8	1.4	SG041_C2	
125	247	30913	21.021	26.793	143.447	806	C19	X	圓錐形剥離剥片	SH3	-	45.2	22.9	9.9	10.63	SG041_F1	
	248	23763	20.966	29.064	143.471	806	C19	X	剥離	OB1	-	23.4	11.9	3.6	1.07		
	249	27515	21.350	29.006	143.424	806	C19	X	石核	SH3	-	26.9	36.1	32.4	24.14	合せ資料No.7_B1	
126	250	31797	20.977	28.577	143.456	806	C20	X	剥離剥片	SH3	-	35.6	21.9	22.3	4.17	SG250	



第1325図 第三文化層第6ブロック第21遺物集中部出土石器実測図

第20表 第三文化層第6ブロック出土石器観察表(3)

件番No.	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	厚さ	プロト・ク	基底面	裏面	分類I,2	分類I,3	石M1	石M2	最大幅(cm)	最大高(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	番号
125	251	27454	19.79	28.190	143.426	896	C21	×	石核	-	SH3	-	26.5	42.6	33.6	39.67	組合資料No.51_C1
	252	27785	20.318	28.348	143.442	896	C21	×	石核	-	SH3	-	37.2	47.3	34.1	54.92	組合資料No.51_S1
	253	27479	20.278	28.369	143.468	896	C21	×	石核	-	SH3	-	30.3	47.9	42.8	56.1	組合資料No.51_W1
	254	27452	19.98	28.325	143.444	896	C21	×	石核	-	SH3	-	38.3	50.4	56.6	90.36	組合資料No.51_B1
	255	27430	19.79	28.463	143.449	896	C21	×	石核	-	KAN	-	31.8	38.7	33.7	26.6	
126	256	24711	23.130	27.095	143.479	896	-	×	ナイフ形石器	-	SH3	-	23.1	10.1	4	0.54	
	257	23831	20.514	29.119	143.486	896	-	×	奥片	-	SH3	-	34	16.5	5.1	2.06	組合資料No.51_A3
	258	20887	20.404	28.906	143.680	896	-	×	奥片	-	SH3	-	35.6	20.9	4.4	3.23	
	259	41749	23.369	27.029	143.378	896	-	X	石核	-	SH3	-	27.8	41.7	37.7	40.07	組合資料No.65_L1
	260	27485	20.131	29.003	143.407	896	-	×	石核	-	SH3	-	40.9	34.2	47.5	73.78	組合資料No.48_J1
	261	29971	20.369	27.781	143.422	896	-	×	石核	-	SH3	-	43	43	36.7	68.73	組合資料No.65_L1
	262	32326	21.791	26.698	143.383	896	-	×	石核	-	SH3	-	23.9	66.1	60.4	98.69	

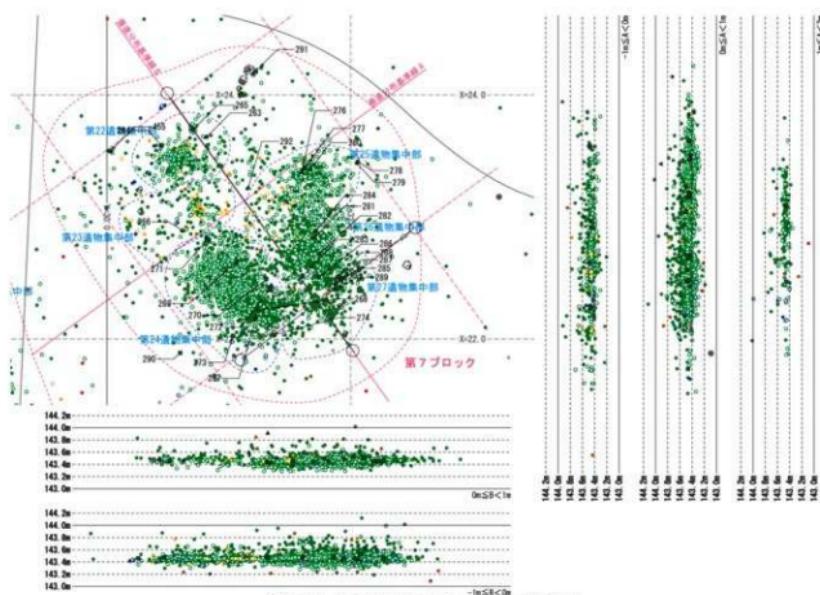


第126図 第III文化層第6ブロック遺物集中部外出土石器実測図

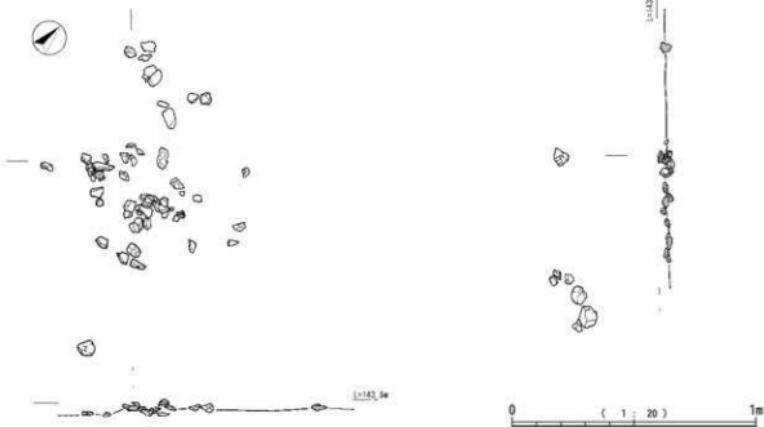
な個体を素材とし、基部に二次加工が施されている。先端部は欠損している。257.258は剥片である。いずれも主軸長35mm程度の縦長剥片である。

259~262は石核である。259は素材形状は不明であるが、

求心状に剥離が進む資料である。周縁が潰れ気味なるまで繰り返し剥離され、ほぼ極限まで剥離が進行している。打面と作業面の反転も行われている。260は節理面を打面として目的的剥片の剥離を行う資料である。259等と比べてやや大き



第127図 第III文化層第7ブロック出土石器分布図



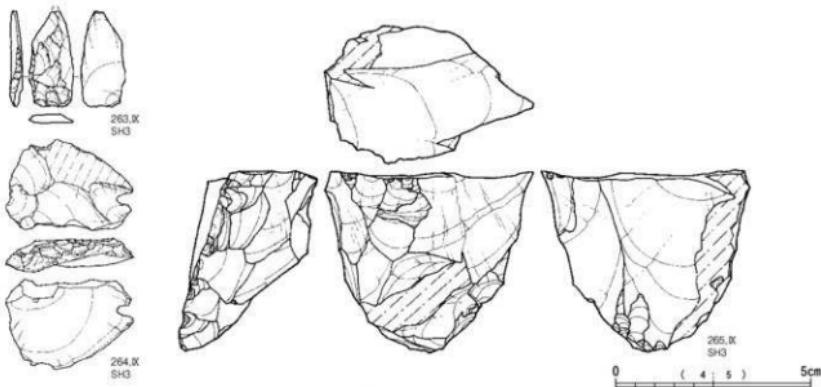
第128図 第III文化層第7ブロック下部石核等出土状況図

く、作業面に残された剥離面の主軸長も30mm程度である。261も260と同程度のサイズの石核である。この資料は平坦な先行剥離面を打面として目的的片の剥離が進行するもので数回の打面転移が観察される。最終段階に近い剥離面の主軸長は35mm程度である。262は節理面に沿って剥離した厚さ2cm程度の板状礫を素材とする石核である。平坦な節理面を

打面として剥離が試みられているが、素材が薄いためかあまり剥離が進行することなく放棄されている。

第7ブロック（第127図）

第6ブロックに隣接して形成されたブロックで、径2m程の範囲の中に頁岩を主体とする遺物集中部が複数形成されて



第129図 第Ⅲ文化層第7ブロック第22遺物集中部出土石器実測図



第130図 第Ⅲ文化層第7ブロック第23遺物集中部出土石器実測図

いる。分布の粗密はあるが、合計6か所の遺物集中部を認定した。また、第6ブロック同様に下部からは比較的大型の剥片や石核を含む集中部が検出された（第128図）。被然破砕縫が数点ブロック縁辺部に散在しており、ブロック下部の石核等の密集部には確認されていない。この他、第22遺物集中部、第23遺物集中部では玉髓II類と黒曜石1類の分布が認められる。これらについては分布状況が散漫なため、便宜的に頁岩主体の各遺物集中部に沿って掲載する。

第7ブロック第22遺物集中部（第129図；第21表）

第7ブロック内では遺物量の多い第24～第25遺物集中部からは少し離れた位置にやや独立して形成された遺物集中部である。頁岩を素材とする碎片及び剥片等が径40cm弱の範囲に密集して出土している。石器はナイフ形石器1点、石核1点を抽出した。この他、調整剥片1点を掲載する。

263は継長剥片素材の小型ナイフ形石器で正面左側縁の基部から中央部にかけて二次加工が施されている。264は調整剥片である。幅広の剥離で後線を取り込みながら剥離を行っており、石核の整形剥片の可能性が高い。

265は石核である。分割縫素材で平坦な先行剥離面を打面として数枚の目的的剥片を剥離しているが、作業面奥に節理が内在するためか積極的な剥片剥離を行わず石核を放棄している。石核形状はやや扁平であるが、裏面側から周縁部に整形剥離を施し形状を整えている。

第7ブロック第23遺物集中部（第130図；第21表）

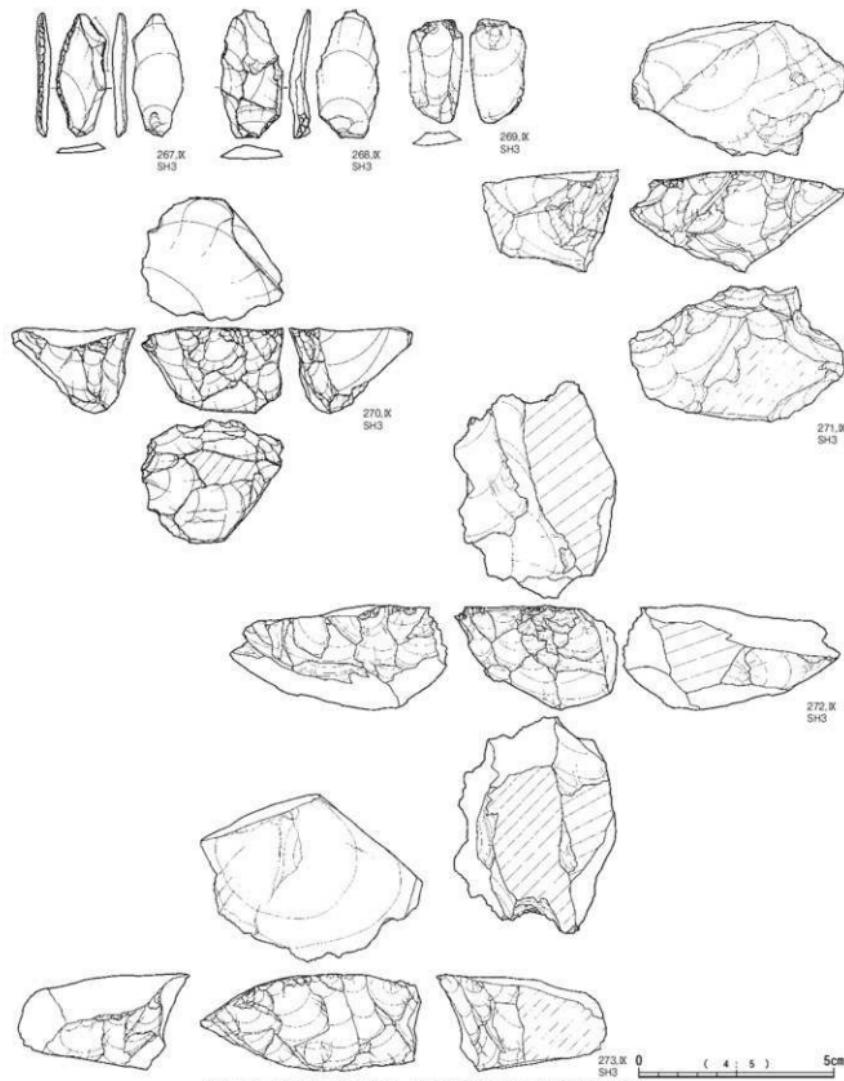
第22遺物集中部と第24遺物集中部の中間に位置する比較的散漫な遺物集中部である。玉髓II類を素材とする剥片が比較的多く分布する。石器は、玉髓II類を素材とするナイフ形石器1点が抽出された。

266はナイフ形石器である。基部が欠損するものの、正面先端部付近には細かな二次加工が施されている。左側縁基部付近には微細剥離痕も観察される。

第7ブロック第24遺物集中部（第131図～第132図；第21表）

第7ブロックでは比較的遺物分布密度が高い集中部である。第25遺物集中部から第27遺物集中部にかけての遺物分布と対をなす位置に形成されている。石材は頁岩III類を素材とするものがほとんどで、ごく僅かに黒曜石1類を素材とするもののが含まれている。剥片の分布にやや偏りがあり、剥片があまり分布しない位置に、大型剥片や石核の集中部が検出されている。ただし、この剥片及び大型剥片と石核等の集中は、第27遺物集中部との関連で考慮すべき可能性も残されており、検討を要する。石器はナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片1点、石核5点、叩石1点を抽出した。この他に、剥片1点を掲載する。

267はナイフ形石器である。主軸長30mm程度の継長剥片を素材とし、正面左側縁に連続的に二次加工を施して製品としている。268は微細剥離痕剥片である。裏面右側縁の尾部付近に微細剥離痕が観察される。269は剥片である。珪質分は少ないが比較的良質の個体を素材としている。

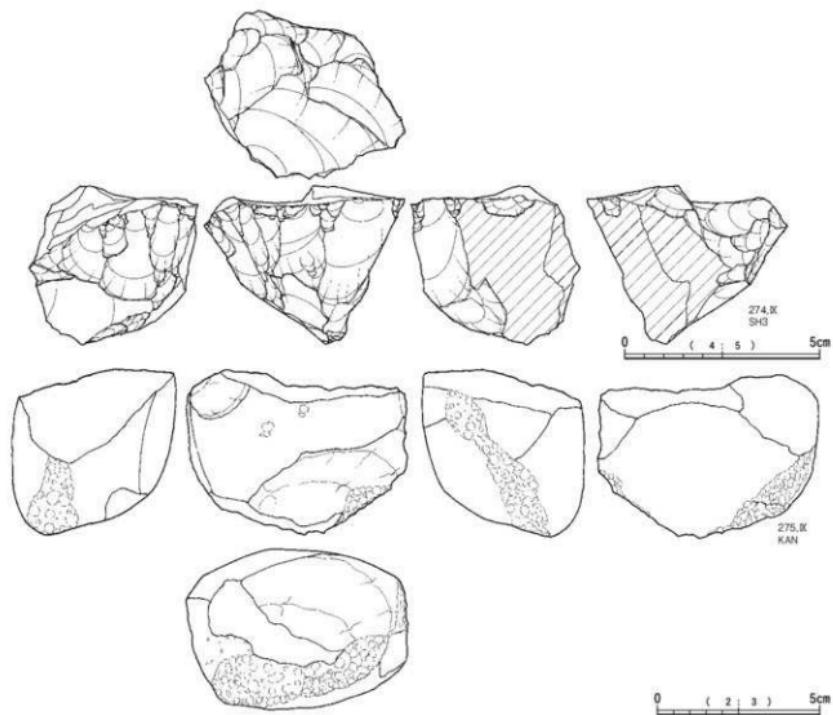


第131図 第III文化層第7ブロック第24遺物集中部出土石器実測図（1）

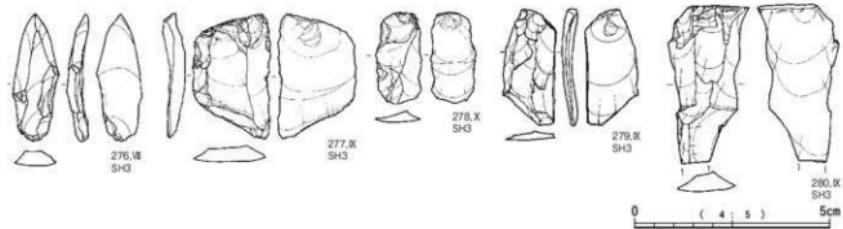
270～274は石核である。270～273は剥片素材、274が分割
標素材である。

270は目的的剥片の剥離がほぼ極限まで進行して放棄され
た資料である。最終段階でも作業面の反転等は行われず、そ
のまま放棄されている。271は素材の主に左側面から尾部側

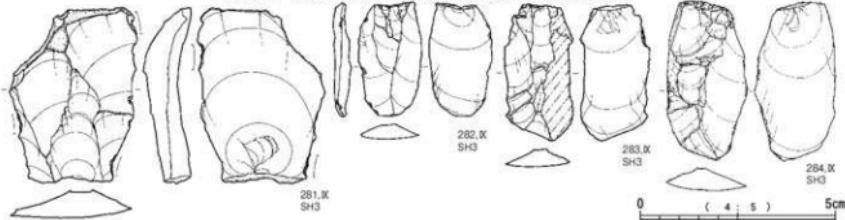
にかけて作業面が設定され、目的的剥片の剥離が行われてい
る。素材剥片の尾部付近が残存しており、素材剥片にはそれ
ほど大きな剥片が選択されている。最終段階に近い状態
まで剥離が進行しているが、作業面の反転等はほとんど行わ
れず、そのまま放棄されている。272は素材の主要剥離面を



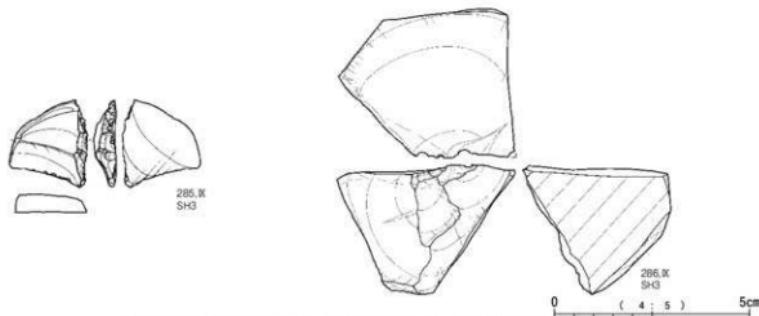
第132図 第III文化層第7ブロック第24遺物集中部出土石器実測図(2)



第133図 第III文化層第7ブロック第25遺物集中部出土石器実測図



第134図 第III文化層第7ブロック第26遺物集中部出土石器実測図



第135図 第Ⅲ文化層第7ブロック第27遺物集中部出土石器実測図(1)

打面として目的的剥片の剥離が行われている資料である。打面直下が潰れており、最終段階では適切な作業面角度が得られずに放棄された可能性が高い。周縁には素材の主要剥離面側から簡単な整形剥離が施されているが、整形剥離は素材形状を極端に変えるようなものではなく、主軸長5cm程度の剥片が選択されている可能性が高い。273は素材剥片の尾部側から剥離が進められた資料である。若干の剥離の継続は可能と見られるが、作業面の反転等が行われることなくそのまま放棄されている。これらの剥片素材の石核は、素材形状や剥離技術などで共通点が多く注意が必要である。

274は厚手の分割縫を素材とする。広い先行剥離面を打面として順次打点を移動させながら剥片剥離を行っている。打面の反転や転移等は行われず、基本的には単設に近い剥離形態である。

石材では271が灰褐色を呈する個体であるほかは、全て僅かに珪質分を含み黒色を呈する比較的良質な個体を素材とする。これらは同一母岩の可能性がある。

275は輝石安山岩を素材とする叩石である。磨石の転用品で被破壊しているため観察が困難な部分もあるが、下端部を中心に比較的強い敲打面が形成されているため、叩石と判断した。比較的大型で敲打面も強いため、石核整形ないし素材生産向けの資料である可能性が高い。

第7ブロック第25集中部(第133図:第21表)

第25遺物集中部は、第26遺物集中部、第27遺物集中部と一連をなし、第24遺物集中部と対になる位置に形成されている。玉體の剥片が分布するが、本集中部を主体とするものかどうかは不明である。石器はナイフ形石器1点、微細剥離痕剥片1点を抽出した。この他に剥片3点を掲載する。

276はナイフ形石器である。主軸長30mm程度の縱長剥片を素材とし、基部付近に二次加工を加えて製品としている。先端部が僅かに摩滅しており、注意を要する。277は微細剥離痕剥片である。やや幅広の縱長剥片の尾部に、微細剥離痕が観察される。278, 279, 280は剥片である。いずれも珪質分の少ない灰色の個体を素材としている。

第7ブロック第26遺物集中部(第134図:第21表)

第25遺物集中部と第27遺物集中部の中間に狭い範囲に形成された集中部である。剥片分布は第27遺物集中部と隣接しているものの、碎片の分布が独立しているため集中部を認定した。下部には比較的大型の石核等が僅かながら分布している。石器は微細剥離痕剥片2点を抽出した。この他に剥片2点を掲載する。

281は比較的大型の剥片で、周縁に断続的に微細剥離痕が観察される。282は主軸長30mm程度の資料で断続的に微細剥離痕が観察されるものである。283, 284は剥片である。

第7ブロック第27遺物集中部(第135図~第136図:第21表)

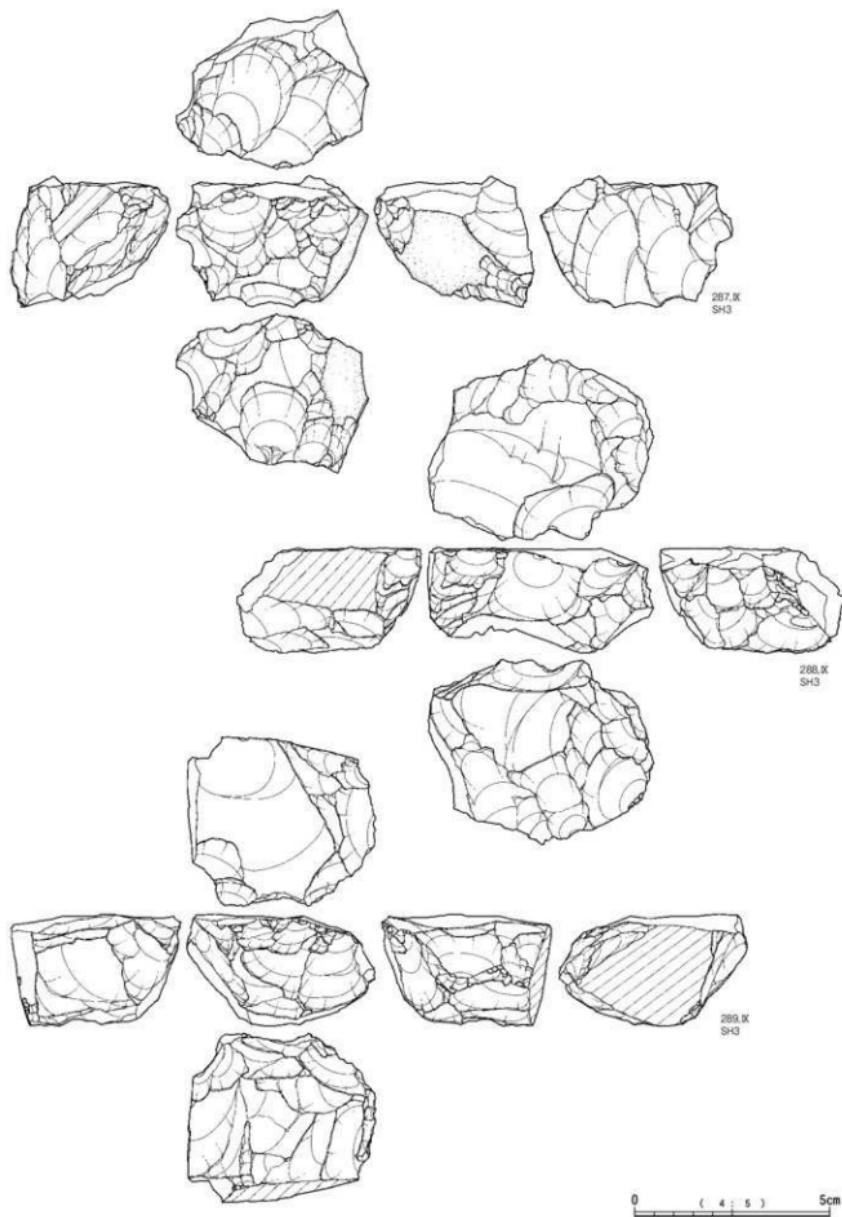
第7ブロックの端に位置する集中部で、碎片の分布が薄く、剥片のみが多く分布する集中部である。下部に比較的大型の剥片や石核等の集中部が形成されている。石器は、二次加工剥片1点と石核4点を抽出した。

285は二次加工剥片で不定形剥片の尾部付近を素材に利用している。側縁部に細かい剥離が断続的に施されているが、二次加工を意識したものかどうかは判然としない。

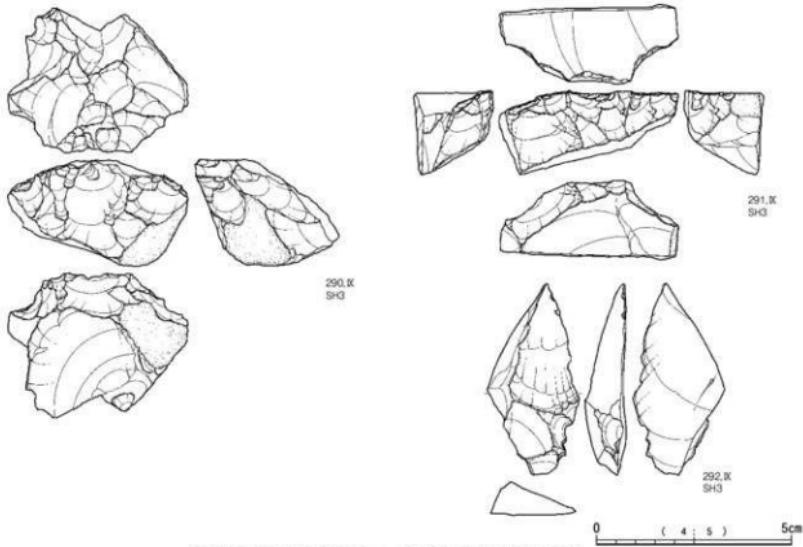
286は石核である。厚手の分割縫を素材とし、平坦な分割面を打面として剥片剥離を開始しているが数回の打撃を加えたのみで放棄されている。

287は厚手の分割縫を素材とする石核である。比較的平坦な先行剥離面を打面として、順次打点を移動しながら剥片剥離を行っている。複数の面にわたって打点が移動しているが作業面は不变であり、剥離形態は求心剥離型石核に近い。288は分割縫を素材とする石核である。平坦な節理面が残されているが打面の周縁には作業面側からの整形剥離が施されている。下半部は欠落している。289は剥片素材の石核である。基本的には素材の主要剥離面を打面として剥離が進んでいるが、最終段階に至る前に打面を反転し、右周縁を中心比較的大きな剥離を数枚加えている。これ以外の剥離は周縁のみにとどまり、簡単な整形剥離にとどめている可能性が高い。最終局面では再度打面を反転し、数枚の目的的剥片の剥離を行った後に石核を放棄している。

287~289は、石核の素材形状や用法こそ異なるものの、剥



第136図 第三文化層第7ブロック第27遺物集中部出土石器実測図（2）



第137図 第Ⅲ文化層第7ブロック遺物集中部外出土石器実測図

離技術には共通性があり残核形状もよく似ている。

第7ブロック遺物集中部外（第137図：第21表）

石核1点と搔器1点、二次加工剥片1点を抽出した。

290は石核である。厚さ3cm程度のおそらく剥片を素材としており、周縁部から打撃を加えて剥離を行っている。打面

第21表 第Ⅲ文化層第7ブロック出土石器観察表

件番号	総番号	裏上No	X座標	Y座標	厚さ	プロット	中年	層位	分類L2	分類L3	EHL1	EHL2	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大高(cm)	重量(g)	備考		
263	96367	25.656	30.814	143.466	807	C28	X	ナイフ形石器	-	-	-	-	24	11.2	3.5	0.66	-		
129	264	27.098	23.583	30.449	143.481	807	C28	離核剥離剥片	-	-	-	-	22.7	31.7	23.4	4.21	組合せ料No71_A2		
265	39653	23.716	30.707	143.460	807	C28	X	石核	-	-	-	-	45.3	51.9	35.5	67.83	組合せ料No77_R1		
130	266	25.811	22.889	30.623	143.498	807	C28	X	ナイフ形石器	-	-	-	-	25.8	10.9	4.4	0.76	-	
	267	36431	22.173	31.222	143.454	807	C28	X	ナイフ形石器	-	-	-	-	30.5	12.6	4	1.09	-	
	268	34739	22.237	31.244	143.459	807	C28	X	離核剥離剥離剥片	-	-	-	-	31.9	15.6	5.6	1.84	組合せ料No77_R6	
	269	34951	22.630	31.064	143.474	807	C28	X	剥片	-	-	-	-	25.9	13.9	4.6	1.61	-	
131	270	32454	22.492	31.308	143.484	807	C28	X	石核	-	-	-	-	21.6	35.3	31.9	21.33	組合せ料No77_B1	
	271	26319	22.809	30.919	143.476	807	C28	X	石核	-	-	-	-	25.3	53.6	34.6	41.65	-	
	272	39649	22.409	31.337	143.458	807	C28	X	石核	-	-	-	-	26.1	40.5	56.6	59.11	組合せ料No77_D1	
	273	24569	22.038	31.036	143.529	807	C28	X	石核	-	-	-	-	34.3	54.9	43.1	61	組合せ料No77_B1	
132	274	39638	22.035	31.376	143.454	807	C28	X	石核	-	-	-	-	39.3	49.9	43.5	69.67	組合せ料No77_K1	
	275	58031	0.000	0.000	0.000	-	-	X	研磨石	KAN	-	-	-	-	80.5	66.2	49.6	200.37	-
	276	19979	23.365	31.600	143.917	807	C25	X	ナイフ形石器	-	-	-	-	31.8	11.5	5.9	1.47	-	
	277	44647	23.398	31.626	143.443	807	C25	X	離核剥離剥片	SHO	-	-	-	-	31.1	19.6	5.9	2.69	組合せ料No77_C14
133	278	56396	23.455	32.059	143.371	807	C25	X	剥片	SHO	-	-	-	-	22.7	11.8	3.7	0.74	組合せ料No67_L20
	279	36569	23.442	32.051	143.431	807	C25	X	剥片	SHO	-	-	-	-	29	13.6	4.5	0.95	-
	280	44640	23.391	31.673	143.433	807	C25	X	剥片	SHO	-	-	-	-	39.4	20.4	6.9	3.8	-
	281	39652	22.831	31.706	143.457	807	C26	X	離核剥離剥片	SHO	-	-	-	-	43.7	31.9	12.6	10.98	-
	282	33295	22.698	31.743	143.485	807	C26	X	離核剥離剥片	SHO	-	-	-	-	28.2	15.9	4.9	1.91	-
	283	26005	22.513	31.606	143.528	807	C26	X	剥片	SHO	-	-	-	-	33.9	17.5	5.4	3.09	組合せ料No71_A2
	284	31105	22.889	31.717	143.494	807	C26	X	剥片	SHO	-	-	-	-	39.5	20.3	6.8	4.21	組合せ料No77_M10
	285	29364	22.496	31.874	143.568	807	C27	X	二次加工剥片	SHO	-	-	-	-	21.8	19.5	6.1	1.83	-
	286	32459	22.507	31.741	143.497	807	C27	X	石核	SHO	-	-	-	-	32.3	44.3	38.4	49.11	-
134	287	39614	22.487	31.923	143.457	807	C27	X	石核	SHO	-	-	-	-	32.8	47.8	40.9	66.87	組合せ料No67_B1
	288	30615	22.509	31.892	143.449	807	C27	X	石核	SHO	-	-	-	-	26.4	56.1	47.6	93.99	組合せ料No67_G1
	289	39613	22.404	31.879	143.457	807	C27	X	石核	SHO	-	-	-	-	27.9	46.8	43.6	73.69	組合せ料No63_D1
135	290	25766	21.886	30.601	143.466	807	-	X	離核	SHO	-	-	-	-	26.5	44.8	37.4	36.58	-
136	291	34799	24.173	31.199	143.498	807	-	X	離核	SHO	-	-	-	-	21.1	44.8	20.7	17.87	組合せ料No67_P1
	292	22785	23.239	31.160	143.462	807	-	X	二次加工剥片	SHO	-	-	-	-	47.7	22.9	10.9	7.5	-



第138図 第III文化層第8ブロック出土石器分布図



第139図 第III文化層第8ブロック下部石核等出土状況図

第8ブロック（第138図）

宮ノ上遺跡第III文化層では唯一、玉器を主体とするブロックである。石材の色調は黄色から白色までバリエーションが大きいが、基本的には赤色系の玉器であると理解される。

第32遺物集中部を中心に合計6か所の集中部を認定した。ブロックの下部からは、比較的大型の剥片や石核等が出土している（第139図）。

第8ブロック第28集中部（第140図；第22表）

ナイフ形石器1点と石核2点を抽出した。

293はナイフ形石器である。主軸長25mm程度の縦長剥片を素材とし、基部と先端部に加工を施して製品としている。

294-295は石核である。平坦な先行剥離面を打面として目的的剥片の剥離を行っている。頁岩Ⅲ類を素材とする石核と比較するとかなり小型で、作業面にみられる剥離痕の主軸長

は15mm程度である。極限まで剥離が継続され、放棄されたものとみられる。

第8ブロック第29遺物集中部

第28遺物集中部と第30遺物集中部の中間に形成された散漫な集中部である。剥片及び碎片が少量分布するのみで、ナイフ形石器や石核等は含まれない。

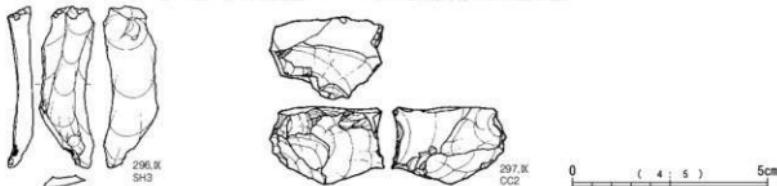
第8ブロック第30遺物集中部（第141図；第22表）

第32遺物集中部に隣接する位置に形成され、比較的散漫な分布状態を呈する。玉器Ⅱ類を主体とする集中部であるが、頁岩Ⅲ類を素材とする縦長剥片1点のみを抽出した。

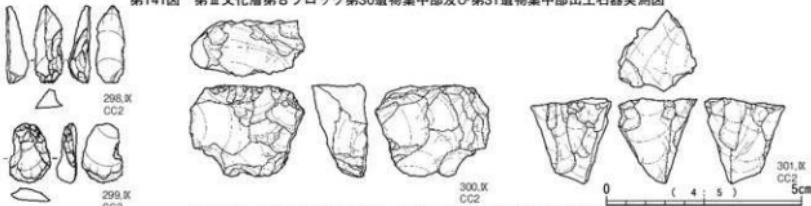
296は頁岩を素材とする縦長剥片である。珪質分にやや富む黒色良質の頁岩を素材としており、主軸長は40mm程度ある。ブロック内における頁岩類の出土は客観的であり、ブ



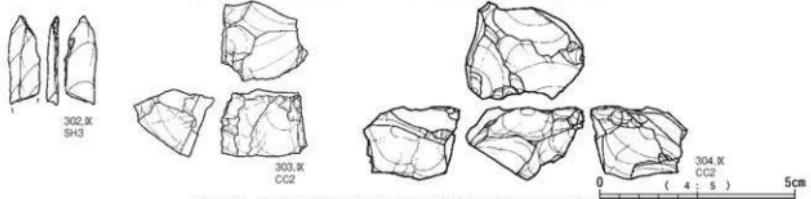
第140図 第三文化層第8 ブロック第28遺物集中部出土石器実測図



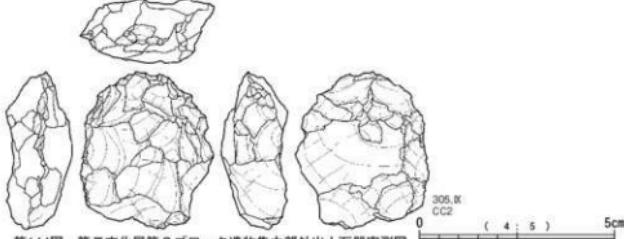
第141図 第三文化層第8 ブロック第30遺物集中部及び第31遺物集中部出土石器実測図



第142図 第三文化層第8 ブロック第32遺物集中部出土石器実測図



第143図 第三文化層第8 ブロック第33遺物集中部出土石器実測図



第144図 第三文化層第8 ブロック遺物集中部外出土石器実測図

ロック外からの撤入品である可能性が高い。

297は幅広厚手の不定形剥片を素材とする石核である。素材が小さく、数枚の剥離を行ったのみで放棄されている。

第8ブロック第31遺物集中部（第141図：第22表）

第28遺物集中部と第32遺物集中部の中間に形成された比較的散漫な遺物集中部である。石核1点が抽出された。

第8ブロック第32遺物集中部（第142図：第22表）

第8ブロックでは最も遺物量の多い集中部であり、碎片や